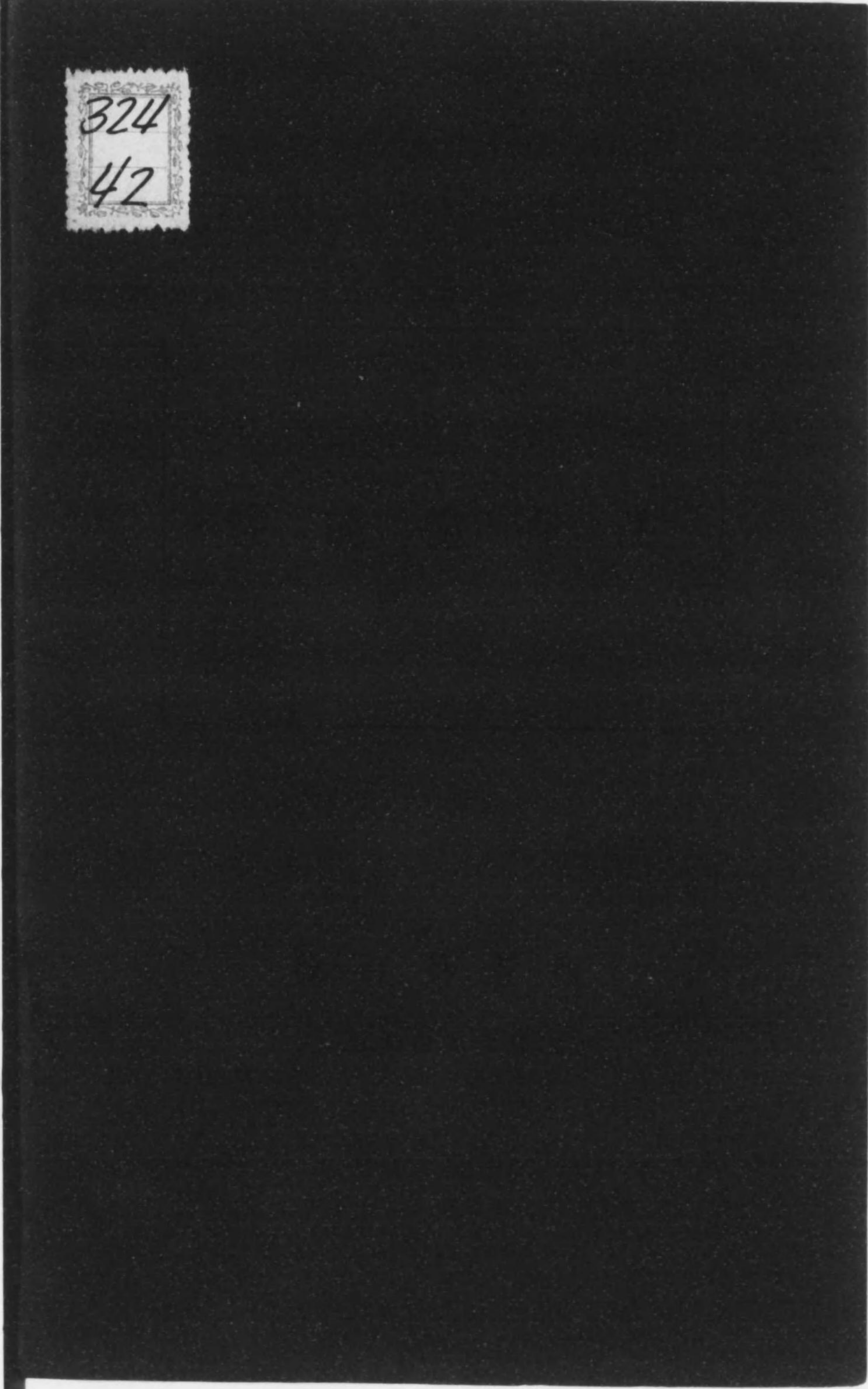




始



324  
42





324  
42

性能検査法

改訂第五版

昭和四年六月



### 青少年には一日も早く職業指導を必要とする

#### 毎年小學校卒業兒童の進路は

尋常小學卒業 1,340,000 餘人

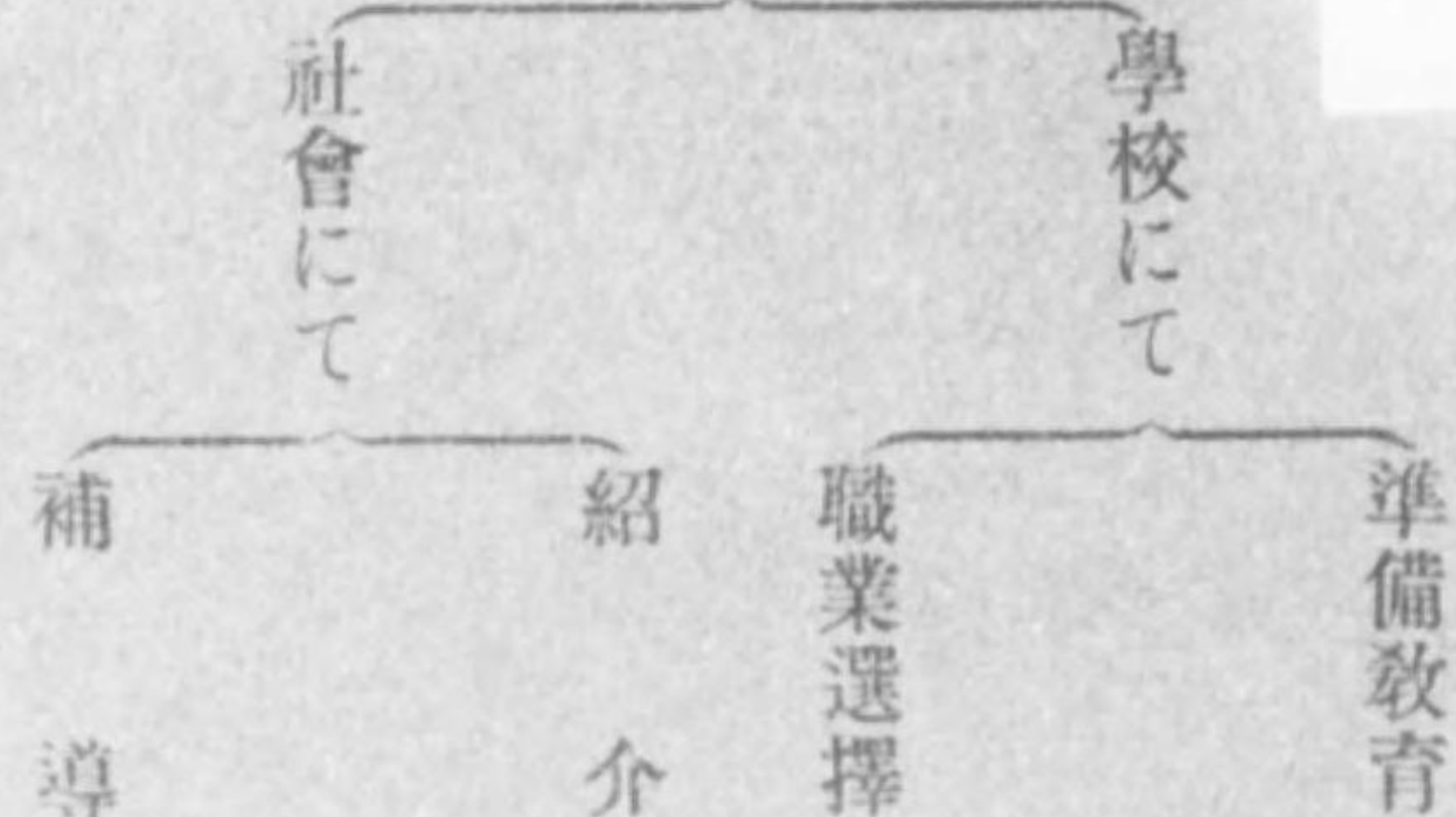
社會 ～ 1,000,000 餘人 中等諸學校へ 280,000 餘人

#### 毎年中等諸學校生徒の進路は

中等學校生徒 280,000 餘人

社會 ～ 160,000 餘人 上級學校へ 110,000 餘人

### 職業指導



76W10914







「適材適所」と申すことは事業を成すに當り最も大切な原則として昔から人口に膾炙して居る所で御座いますが、此の「適材適所」を見出す爲に科學的方法を應用致しますのが茲に謂ふ所の性能検査法で御座います。もう少し詳しく申しますれば、實驗心理學的方法を用ゐて各人の能力素質を分析的に試験致し、其結果を綜合して其人の進路を定める基礎と致すので御座います。

適材を適所に記置するの大切なことは一つの事業に於てのみならず、之を大にして國家社會について申しますれば、國民の總てか各々その性質能力の最も適する所に向つて其の全能力を發揮することが出來ますれば、國民能率の上に莫大な増進を見る譯でありまして、是が研究及び施設は社會共存共榮の爲に誠に緊要の問題で御座います。殊に經濟的國際競争の益々劇しくなりつゝありまする今後の時代に於きましては、國家としても眞剣に研究實施致さねばならぬ問題と存じます。

又之を小にして一個人に就て申しましても、自分の性質能力の最も適する所に従事致しますれば其の長所を發揮して、仕事の成績が舉がりますから従つて物質的報酬が増加致します。又、性能に適した仕事は興味を覺えますから、職を楽しむといふ精神的報酬も多大であります。即ち直接に個人の幸福の爲にも性能の適所に向ふことが甚だ大切に御座います。

斯くの如き次第で御座いますから、當局に於かせられても、此點に深き御考慮を回らされ、御承知の通り昭和二年の秋には文部大臣から是に關する訓令を各地方へ發せられました。其中の御言葉に、「青少年ヲシテ其性能ノ適スル所ニ向ハシムルハ時勢ノ進歩ト社會ノ推移トニ照シ洵ニ喫緊ノ要務ニ屬ス云々」と御座います、尙、「各人ノ長所ヲ發揮セシメ職業ノ選擇ニ關シ懇切周到ニ指導スルコトヲ要ス云々」との御主旨が御座います。

又、内務省社會局並に文部省普通學務局からも各地方へ通牒を發せられ小學校卒業



76W10914





後直ちに職を求むる者の爲に「各自ノ性質及能力ニツキ最モ精通スル小學校ト職業ノ状況ニ通ズル職業紹介所ト相互協力提携シテ適當ナル職業ヲ選擇スル様」にと懇々勸告せられました。

かくして今や全国的に個性調査、適材適所の配置研究を奨励せらるゝに至つたので御座います。

扱、この主旨に従ひまして、合理的な職業指導をなすことは、最早議論の時代を過ぎて、着々實行致すべき時機に入つて居ると存じますが、その實施に當りまして此性能検査法が大切な役目を致すので御座います。

昔は一般に（否今日でも尙）職業を選択致しまするに、其の多くは世襲的でありまして、本人の性能の適不適をあまり問はなかつたのでありました。或は、占ひや神佛のお告げの如き宗教的乃至は迷信的方法によつて決められた場合が少くないのであります。偶、性質能力の適する方へと志す者がありまして、唯、漫然と、「これが適しそうだ」位の標準で定められたので御座います。文化の未だ低い時代に於きましては、職業の數も少く、又單純でありました故、その時代としましてはその様な選び方でも大した差支は無かつたので御座います。

然るに近代科學文明の急劇なる進歩につれて社會が複雑になり、従つて職業の分化も著しくなり其數が萬を以て數ふるに至りました。斯くの如き時代に於きまして尙ほ古來の漫然たる選擇法を以て足るでありませうか？ 否、それは誠に危険でありまして、世に幾多の青年が是が爲に進路を誤り、其結果轉業或は失業の不幸を招き、優秀な素質を一方に持ちながら不遇に沈み、或は社會の不平分子となり終る者が少くないと存じます。斯くては本人の不幸は固より、社會にとつても莫大なる損失で御座います。

所謂危険思想の如きも、右の如き者が救済せられ、豫防されない限りは、如何なる國法を以てしても根絶は覺束なく思想善導運動も完全な効果は期待されない事と考へられます。

現今職業の數は前申上げました通り萬を以て數ふる程でありまして、これ等各種の

職業は皆それぞれ特種の性質能力の人間を要求して居るので御座いますが、幸にして人間の生れつきも亦其容貌の皆異なる如く千差万別でありまして、多種ある職業のどれかに向くやうに出来て居ります。これを六ヶしく申せば「職業選擇の基礎となるものは心理的生理的個人差である」といふことになります。此の個人差を科學的實驗方法を以て發見しやうと致すのが性能検査の役目で御座います。

性能検査法につきましては私共は微力を省みず、世に先んじて手を染めまして、専門學者の御指導に基き、多年來此種器械の研究製作に従事致し、及ばずながら其實用化と普及の爲に努力して参りました處、漸く今日に至つて是が教育上にも實社會の應用上にも缺くべからざる方法の一と認められる様になりました。最近に於ける其普及の状況を申し上げますれば、内務省社會局に於ては各地の職業紹介所で之を設備するに半額を補助される事になつて居ります。又東京市教育局を始め各府縣の當局も其の實施を着々進められて居ります。尙斯道の諸大家は舉て熱心に御盡力を寄せられて居ります。又民間に於きましては科學的能率研究を行ふ會社、工場の方面からも採用實施の結果賞賛を寄せられて居ります。

この性能検査器械は主として青少年の教育上及び職業指導上又は雇傭上の一般的應用を目的とするのでありますが、此外、特別の體質及能力を絶対に要求する職業（例へば飛行機操縦者、工場に従事する特種の職工等の如きもの）に於きましては之に合格する人を求むる爲特別の實驗器械を要する場合があります。そういふ特種のもを一般的應用の性能検査器械と便宜上區別する爲、私共は假に適性検査器械と呼んで居ります。各種の適性検査器械に於ても私共は年來の經驗を有して居りますが、是は本篇の問題外で御座います。（只卷末に其の器械名を記して置きます）

茲に御説明申上げます性能検査器械は能力素質を分析的に検査する爲十數通りの實驗に要する器械を一揃と致したもので御座います。

實驗の方法及び器械の使用法は各項に涉り後條に詳しく説明してありますが一寸其大體を申上ますと

人の能力の中、主として運動機能に屬する部分と、主として知覺機能に屬する部分



と、それから、精神機能に屬する方面とを別々に検査致します。其外に、器械によらずに、テスト用紙を用ゐて行ふ智能検査が御座います。智能は腦の総合的の働でありまして、是は教育の影響が大でありますから其検査は必しも素質のみでなく現在の智能程度を検するに適します。之に反して、器械を用ふる方は基本的機能を分析的に検査するのでから教育的の影響が割合に少く存外先天的素質がよく表はれます。又觀察によつては到底見出せない點が発見されるので御座います。是等が此方法の大なる長所で御座います。又この結果を以て平素の觀察を批判し、訂正します時は觀察力を一層訓練することになり、實際心理家たる教育家諸賢には益する所少くないと存じます。

又實驗そのものは、檢者にも被檢者にも存外面白く、兒童は殆ど遊戯的興味を以て之を行ふのでありまして、此點も實行上誠に都合のよい事で御座います。

然しながら、茲で一言御断り申上げますが、この性能検査法は個性特質を精査する方法の全部ではありません即、擔任の先生方或は人を雇備する任にある方々の平素の繼續的觀察や學業或は作業上の綿密なる考査等と對照し、綜合して始めて信頼すべき資料となるので御座います。それ故に此性能検査の結果だけを以て直ちに斷定することは避けねばなりません。

手近いたとへを以て申上げますれば、老練なる名醫が病人を診察致しまするに、別段複雑なる器械や面倒な装置を用ゐなくとも、よく周密な觀察によつて的確なる診斷を下し治療の方針を示すことが出来ます。然しながら又X光線や顯微鏡等の物理學的機械を用ゐ、或は尿の化學的分析や血清の生物學的反應等の精密實驗を行ひますことも缺くべからざる方法でありまして、是によつて普通の診察では名醫にも見出し得ぬ隠れたる徴候を精確に発見し得るのであります。又一面これによつて醫師が自己の觀察の正否を批判し一層觀察力の訓練が出来るのであります。而して是等の精密検査もそのみで斷定を下し得るのではなく、一般診察の結果と對照し綜合して始めて價値ある資料となる譯で御座います。

性能検査の價値も亦之に比すべきものと存じます。學校の先生方又は雇備主側の方

々の平素の觀察を老練なる醫師の診察にたとへますれば、性能検査は右の理化學的精密試験になぞらへることが出来ませう。

是等の心理學的検査方法は決して固定不變なものではありません。茲に御紹介致しまする方法もこれで完成したと申すのではなく、専門學者と實地應用家との協力によつて益々進歩發達さすべきものであらうと存じます。

この點につきましては實地家諸賢に深く期待するのであります。

是等の實驗は主として能力素質の検査を目的と致して居りますが檢者が實驗の際深い注意を以て觀察されますと、性格上の特徴や長所短所が存外現はれるので御座います。例へば或る實驗では、慎重熟慮する性質か、或は場當りの事を行ふ性質か表はれ、又決斷力に富むか或は因循な性質か暗示されます。又或場合には、ごまかしたり偽りを言ふ傾向等、徳性上の缺陷が発見されます。そして、それ等が平素の觀察とよく符合するといふことが、實施の結果報告されて居ります。

是等は此性能検査の副産物ともいふべきものでありますが、こゝで言ふ副産物こそ教育職業指導上又は職業選擇上大切な資料でありまして、平素の觀察、家庭の環境等と對照しますれば興味も深くなり又考査上價値あることと存じます。

要するに此器械を善用化し、其効果を大ならしめることは檢者の熱心と努力に俟つ次第でありまして、各實驗毎に研究的態度を以て注意深く行つて載きますと、謂ふべからざる個性上の面白い発見も出来ることと信じます。何卒御實施の上其結果に就て承り度、又御研究の結果色々御指導下さいませ様に御願申上げる次第で御座います。

性能検査器械としてこれまで世に現はれたものは實に多種多様であつて實地採用に當つてその選擇に迷ふのでありますが、廣く一般的に應用する爲にはあまり複雑に過ぎず、大さも手頃で値段も成るべく安く然も結果の相當信頼出来る検査成績表を添へられてあるものが望ましく、然らざるものは一面に於て危険を伴ふことを考慮されるものであります。

この點に就て文學士谷口政秀氏が東京市少年職業相談所主任たりし當時多年經驗の結果、從來のものの中より選抜したる數種のものに更に自己考案の二、三種を加へて



之れを箱入の登組とすることを發案せられたるに創り、爾來數ヶ年間實地に研究したる結果、以上の諸條件に略適合するものとなりました。此の器械をこれまでに仕上げに就ては各方面の専門大家より熱心なる御指導と御奨励とを受け、殊に次の方々に負ふ處多大であります。

東京高等師範學校教授	文學博士	田中 寛一氏
東京帝國大學文學部助教授	文學士	増田 惟茂氏
東京高等師範學校教授	文學博士 醫學士	寺澤 巖男氏
東京帝國大學農學部助教授	文學士	青木 誠四郎氏
内務省社會局技師	醫學博士	熊谷 直三郎氏
横濱高等工業學校教授	マスター オブ アーツ	水野 常吉氏
内務省中央職業紹介事務局	事務官	福原 誠三郎氏
同 局		糸井 謹治氏
同 局	經濟學士	三澤 房太郎氏
東京地方職業紹介事務局長		遊佐 敏彦氏
東京市教育局	文學士	増田 幸一氏
愛知縣立兒童研究所長		丸山 良二氏
東京市電氣局	醫學士	高峰 博氏
東京府職業紹介所長		豊原 又男氏
同	文學士	岡部 彌太郎氏
同 少年相談部主任		川野 温興氏
東京市少年職業相談所	文學士	濱中 濱太郎氏
同 主任		小野 磐彦氏
内務省中央職業紹介事務局	文學士	谷口 政秀氏

(順序不同)

茲に是等諸先生に對して厚く感謝の意を表します。

昭和四年六月

山越工作所長 山越長七

目次

性能検査法

智能検査.....11

能力素質検査

運動機能

1. 反應検査.....11	2. 作業速度検査.....15
3. 技能學習力検査.....16	4. 運動速度検査.....19
5. 握力検査.....21	

感覺知覺

6. 聽力検査.....22	7. 視觸覺辨別検査.....24
8. 空間辨別検査.....26	9. 光度辨別検査.....27
10. 觸覺検査.....29	11. 色神検査.....30
12. 視力検査.....30	

精神機能

13. 記憶力検査.....31	14. 選擇力検査.....34
15. 注意力検査.....36	16. 構成力検査.....38

検査の準備と査定.....40

受験票の記入法.....40
受験票様式.....41
検査成績と學業成績に就て.....42
検査上の注意.....42
検査器の手入と消毒.....43

附録圖表

高等小學第一年生性能検査點數表.....44
高等小學第二年生性能検査點數表.....45
尋常高等小學生智能検査點數表.....46
職業分析表A.(工業).....47
職業分析表B.(商業).....49
職業分析表C.(其他).....50



## 性能検査法

性能検査といふのは、観察だけでは極めて不正確であり、従つて到底発見し得ない點が多々あるから之を生理學的・心理學的實驗の助けで発見しやうといふのが本來の目的であつて全く科學的基礎の上に立てられた分析的の測定法である。

之を大別すれば智能検査及能力素質検査となる。

### 智能検査

智能とは簡単にいふと未知の事柄に對して爲し得る正當な判斷、理解及辨別の力で、之が如何なることに遭遇しても都合よく時宜に應じて處置の出来る能力であるから、有らゆる智的作業の基礎をなすものである。

歐洲大戰の頃米國では軍隊検査を行つた處がかういふことが判つた。即ち職業の種類によつて智能に段階があり、之が高級な智能を必要とする職業につくものより、實務的、技術及商業、勞働といふ順序に智能が下降してゐる。又大正十三年の夏に東京市少年職業相談所が軍隊検査を行つた時にも米國の場合と同一の結果を見たのである。

本検査に用ゆる智能検査用紙は文學士谷口政秀氏が約二ヶ年に渉りて、東京府市の諸小學校に於て兒童壹萬餘人に行なつたもので其の検査成績の一部は卷末 46 頁に示してある。

本用紙を使用し検査によつて得たる成績は此の點數表に對照して A. B. C. D. に品等するものである。

### 能力素質検査

茲にいふ能力素質検査とは運動機能、感覺知覺、精神機能に屬する方面を別々に検査致し分析的に實驗測定するのである。

能力素質を検査する器械は從來澤山にあつて一々枚舉に違がない位であるが、或は複雑に過ぎ、或は單純に過ぎ、或は精巧であつても價が高く實際上の應用に適しないものが多く、殊に多數兒童の検査に適せざるもの或は實際多數人に向つて實驗せざるもの等があつて當面に之を使用してゆかねばならぬ人々の爲めにはその選擇すら困難な状態にある。

そこで山越工作所に於ては之等多くの器械のうちから、必要にて缺くべからざるもの、而も價格も手頃で、使用法も割りに簡單なるもの幾種かを組み合せて一組の検査用器械となし、數ヶ年間幾多の學校等に於て検査研究を告げて、之が製作願布の任に當つてゐる譯であるが、之までの経過ではこの一組の器械がかなり實用になり又現在の程度では之で充分のやうにも思はれるのである。

今項を改めて性能検査を行ふ方法を詳説する。

用紙によるテストは

主として後天的智能を考査するに適し

器械による検査は

主として先天的能力素質を發見するに

適する

それ故に

性能検査には兩者を併用し

更に

身體検査を行ふのである



## 特許 性能検査器



**性能検査に就て**

- 一、性能を知らざれば前途を誤ることが多い、上の學校へ進むにも、職業に就くにも。
- 二、文部省では小學校から中等諸學校に至る迄個性調査をなすことを訓令し。
- 三、内務省では各地の職業紹介所で、既に實施せしめて居る。
- 四、會社、工場、商店でも、適材を採り適所に配置をしなければ、能率上や經濟上の破滅を來たし且つ個人に對しても罪の深いことになる。

## 性能検査

### 智能検査

#### 目的

智能の優劣は尋常人にありては先天的原因よりも後天的に來るものが尠くない即ち教育的効果の影響が大なりとする、こゝでは被検査者の現在に於ける智能度を検べるのである。

#### 用具

用紙を用ひて検べる、用紙には今日まで幾多の種類が現はれて居るが一定の標準の基に少なくとも五千人以上のテストを行ひ其の標準を作成したものであることが望ましい。

#### 検査及採點方法は

智能検査手引に詳しく記してある

## 運動機能

### 1. 反應検査

#### 目的

刺激に對し意志的運動の反應速度を検査する。(本器は光覺及觸覺の選擇反應も出来るがこゝでは音に對する反應だけを單一に検査する)。

#### 用具

反應時間測定器

#### 器械の構成

指針の着いてゐる振子(長振子と稱ぶ)は刺激鍵(検査者の持つ鍵)に連る。



白線の書いてある振子（短振子と稱ぶ）は

反應鍵（被檢者に與へる鍵）に連る。

振子の絲の長さを決めるには振子支柱の根にある下方の孔と長振子の孔に調節棒を差し通して、長振子の（絲の）長さをきめ、上方の孔と短振子の孔に差し通して短振子の（絲の）長さをきめるのである。

振子の長さ如何は本器の主要部であるから、更に誤りの有無を次の致方で測定する。

長振子の測定 長振子より出てゐる針金を振子鉢みにはさませ、刺戟鍵に右手の示指を當て、左手にストップウォッチを持つて、鍵と時計とを同時に押し、長振子の100振幅が80秒に合致する様、絲の長さを加減する。

短振子も前記と同様の操作をして、短振子の100振幅が78秒になる様に絲の長さを加減する。

そこで兩振子一回の振幅時間の差は0.02秒となり、この振幅差が反應時間算出の基礎となるのである。（振子の一振幅とは振子鉢から振子が發足し再び鉢の方へ振り戻つて来る即ち球の一往復のことである）。

#### 検査方法

振子から出てゐる針金を各々振子鉢みにはさませ、長振子の指針が短振子の白線を指示するやう調節して、檢者は長振子に連なる刺戟鍵を持ち、被檢者には短振子に連る反應鍵に（反應鍵は二個あるがその何れか一方に）指を當てさせて、檢者が打つ刺戟鍵の音に對して、被檢者が反應鍵を押す速さを成績とする。成績は長振子の指針が短振子の白線と合致運動をするまでの長振子の振幅数を算へて検査一回毎に成績表に記入するのである。

#### 説明語を與へる

「説明語」貴方ノ右ノ示指ヲ輕クノ（反應）鍵ニ置キナサイ。コ、デコンナ音「カチ」ト立マスカラ、コレヲ聞クト貴方ノ鍵ヲスグ押スノデスヨ、目ヲ閉ヂテ注意シテ聞イテ下サイ、而シテ一度鍵ヲ押シタラ目ヲオ明ケナサイ。（次回の操作に懸る

時、再び「目ヲ閉ヂテ」と云ふのである。（凡て説明語は茲に記した様に行ふべきであつて、説明語の如何は成績に現はれ方が違ふから濫りに省略してはならない。尙、被檢者に對し「用意」などの準備的な言葉を與へると尙早反應して困る場合があるから注意すべきである）。但し研究的に種々の方法を行ふのも本法發達上望ましいことである。

各被檢者毎に練習を二、三回させる、練習には振子を用ひないで、只に音だけでもよい。

#### 採點法

五回検査の振幅数の平均をとつて成績とする

I II II IV V

例へば  $(6+7+8+7+8)+36 \div 5 = 7.2$  <sup>(振幅)</sup>

即ち 五回を平均した一回の振幅数となる。

若し被檢者が幼少年の場合には反應が遅く且つ検査回数多ければ倦怠を起すために、検査回数を二回又は三回とする

I II

二回検査の場合  $(15+17)+32 \div 2 = 16$

検査成績を時間に換算するには成績（振幅数）に20を掛ける

例、五回検査の平均振幅数  $7.2 \times 20 = 144$  <sup>(シグマ)</sup> となる

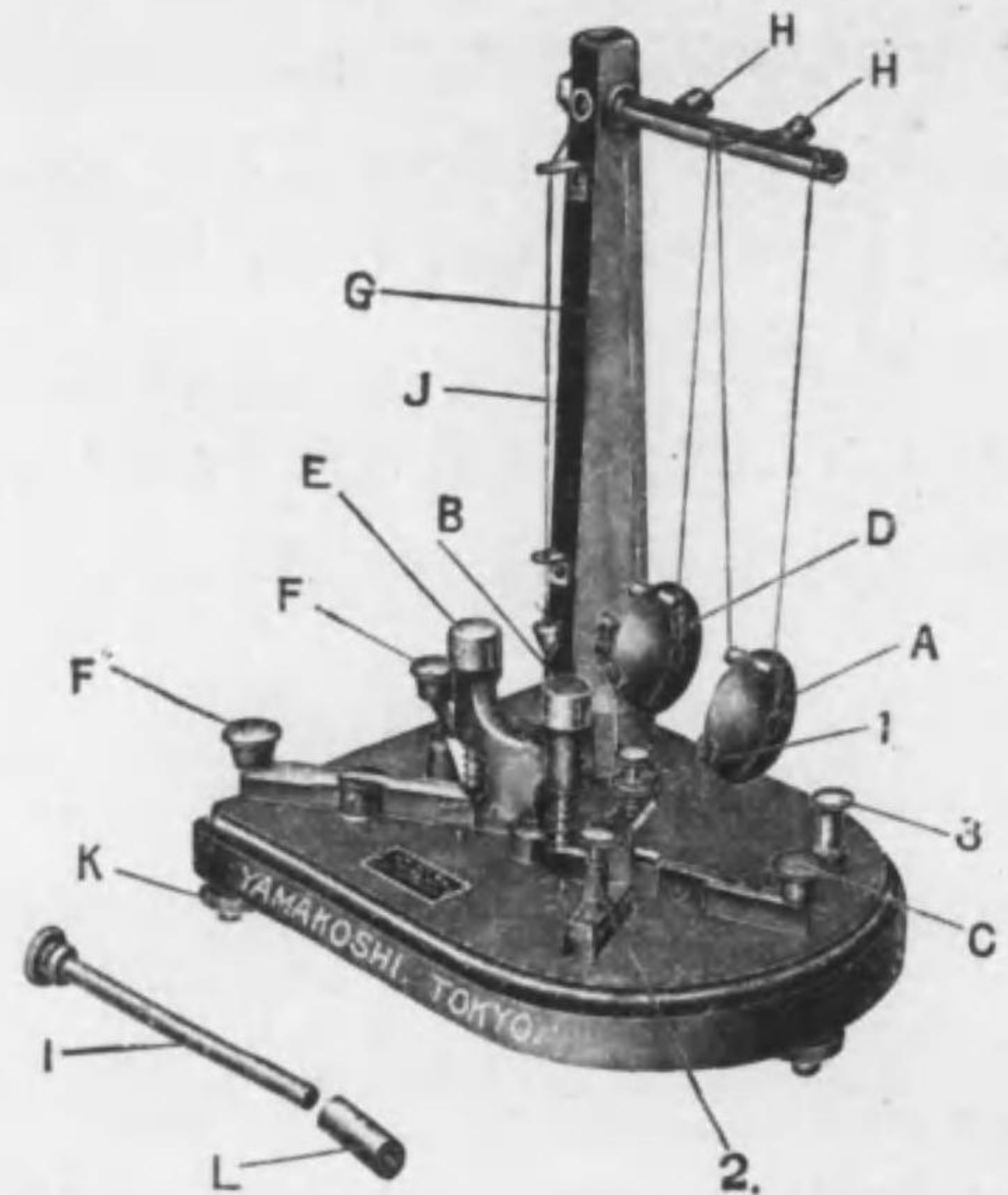
「注意」一回の反應最高速度は生理學上 100 シグマ（五振幅）を限度としてあつて、若し100シグマ以下（五振幅以下）が現はれた場合は必ず焦燥反應であるからそれらは採點から除くべきである。

#### 特種検査用具（反應検査附屬具）に就て

光覺反應検査器は白、赤、緑の三色を任意に點滅出来る刺戟電燈と其の斷接器とで成立つてゐて、光による選擇反應も出来るのである。觸覺検査器は指頭を毛の振觸によつて感覺せしめる電動装置であつて、何れも乾電池を用ひて圖中 2. 3. のターミナルに接続して用ゆるのである。



第一圖 反應時間測定器 (實用新案108032)



- |         |        |          |                 |
|---------|--------|----------|-----------------|
| A. 長振子  | F. 反應鍵 | J. 垂直球ノ糸 | 1. (特種検査用) 斷續器  |
| B. 長振子鉄 | F' 反應鍵 | K. 調面足   | 2. 同 (ターミナル)    |
| C. 判裁鍵  | G. 支柱  | L. 振子保護器 | 3. 同 (ターミナル)    |
| D. 短振子  | H. 絲止メ |          | (1.2.3.は光覺反應觸覺反 |
| E. 短振子鉄 | I. 調節棒 |          | 應に用ふ)           |



(検査の實況)

## 2. 作業速度検査

### 目的

運動の敏緩、注意持續の良否等の綜合能力を検査する。

### 用具

作業速度検査器 ストップウォッチ を用ゆる

### 器械の構成

三十度の傾斜面を有する金屬板に150の小孔があつて更にその上に挿し入れる小棒とて出來てゐる。器の後方にある引出を引出して器の前の金具に引手を嵌める、器の後方上部に出てゐる柄は棒拔板の柄であつて此の柄を下方へ押せば挿した棒は一度に全部抜ける仕掛に出來てゐる。

### 検査方法

被検査者を机の前に立たせて、左手で器の縁を押へさせ、右手で小棒を一本づゝ持つて小孔の左の上から右へ、一つもぬかさないう、出來る丈け早く挿させる。

(左利のものは之れと反對に行ひ、一度挿した棒は拔落ても採點に加ふ可きである。)

### 説明語を與へる

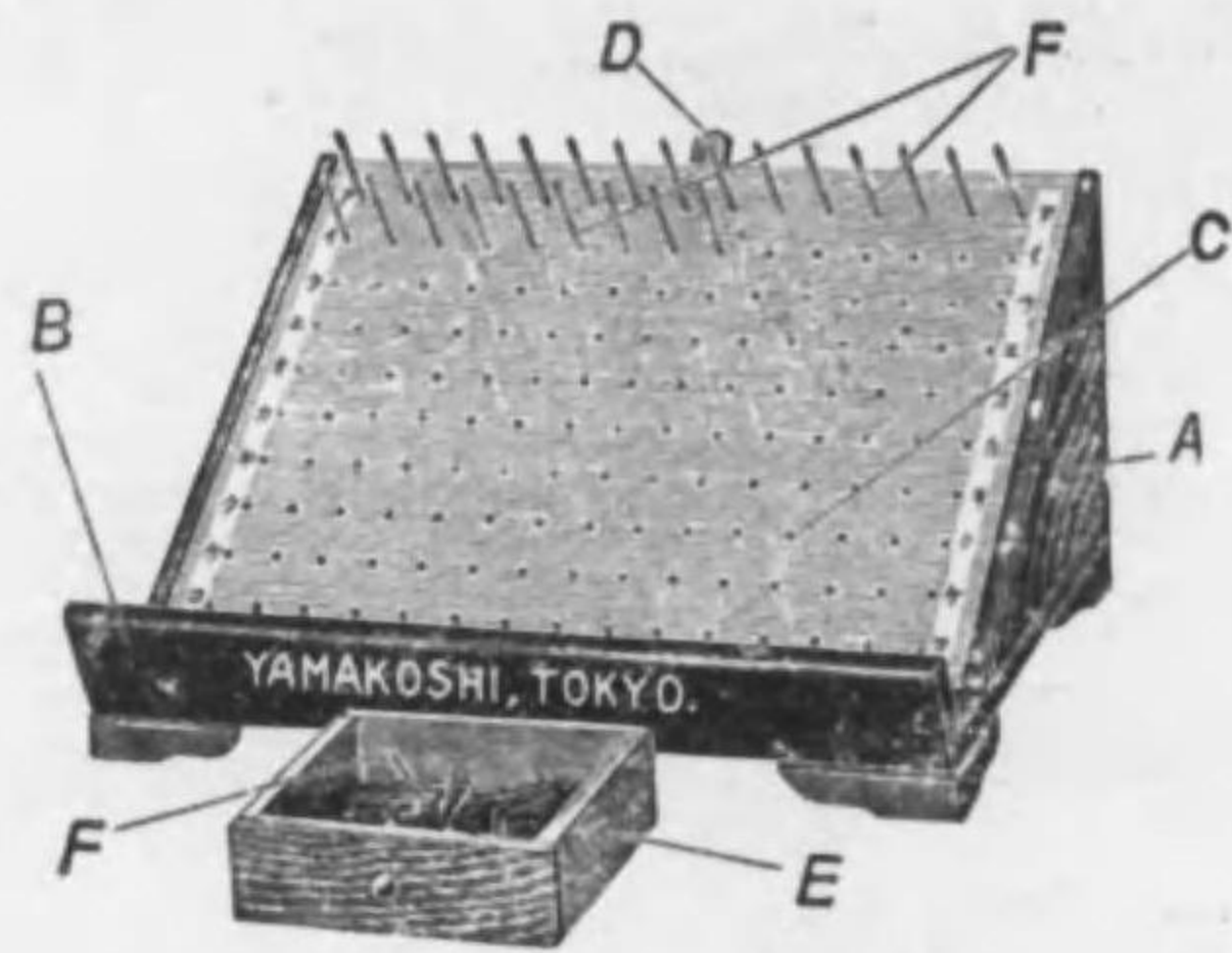
「説明語」今コノ孔ニ此ノ棒ヲ必ず一本宛持ツテ右手丈ケテ挿スノデス、左ノ上カラ右ヘ右ノ端ニ行ツタラ又左ノ端ニ戻リ一ツモヌカサナイヤウニ出來ルダケ早ク挿シテ下サイ、判リマシタカ、用意デー本持ツテ

### 採點法

「始め」でストップウォッチを進ませ二分間作業せしめて棒の數を算へて採點する。



第二圖 作業速度検査器 (實用新案107003)



- |        |          |
|--------|----------|
| A. 臺   | D. 棒抜板の柄 |
| B. 滑り止 | E. 棒入抽出棒 |
| C. 有孔盤 | F. 挿棒    |



(検査の實況)

### 3. 技能學習力検査

#### 目的

精神と技巧の総合的能力と記憶的習慣に添はない運動を實驗的に學習せしめ其の能力を判定する検査である。

#### 用具

鏡寫實驗器 検査用紙 鉛筆 秒時計 を用ゆる

#### 器械の構成

臺の上に鏡の直立があつて之れを支柱で受けてゐる検査用紙 (星形圖型) は用紙止で押へる、被檢者には圖型を直接見せないやうに目遮板で遮つてゐる。

#### 検査方法

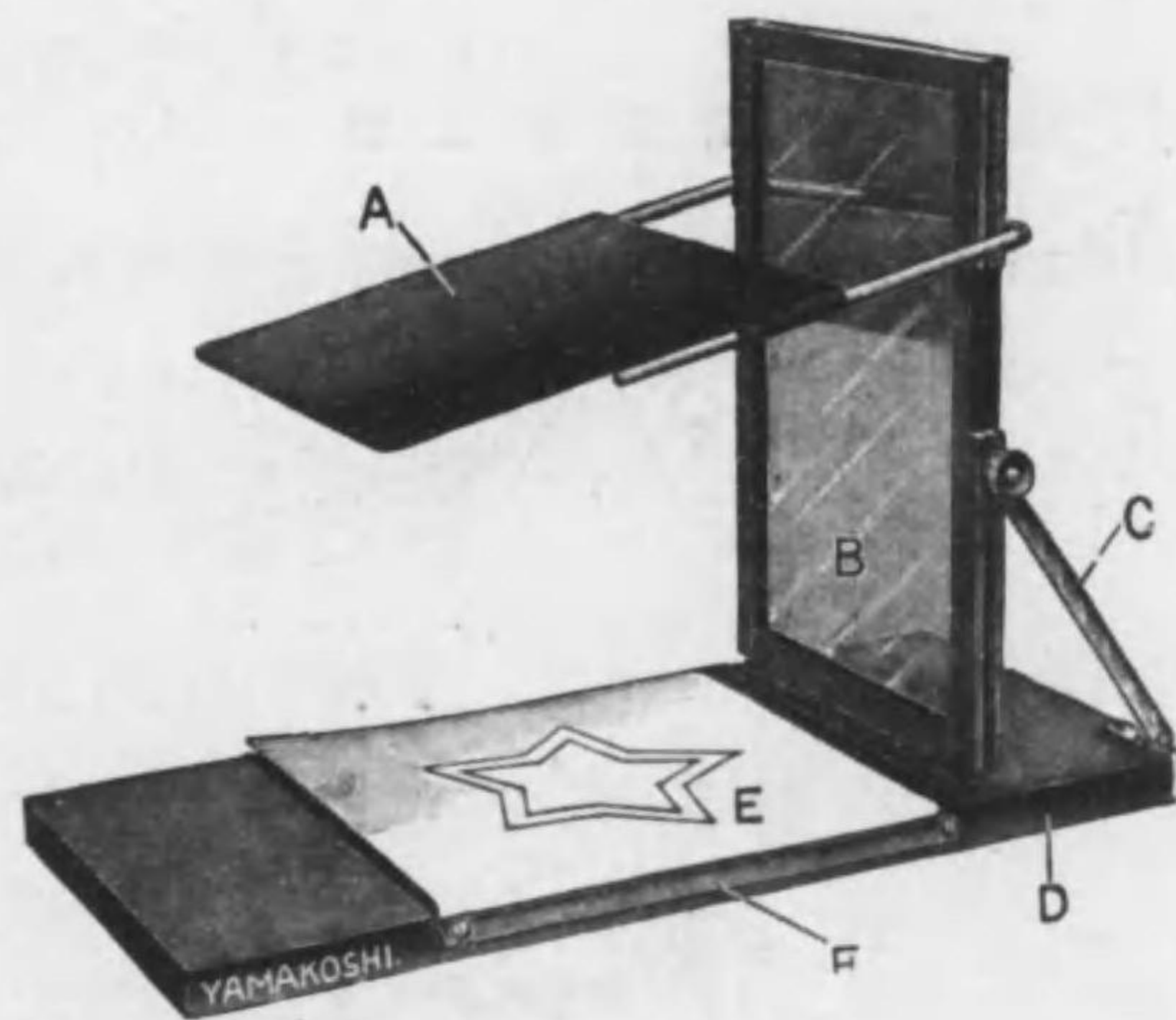
鏡に寫つてゐる星形圖型の内側と外側の二線の間をなるべく外へ出ないやうに早く矢印の方向に鉛筆で辿つて一周りさせる。

#### 説明語を與へる

「説明語」 鏡ニ寫ツテキル星形ノ内側ト外側ノ二線ノ間ヲ成ル可ク外へ出ナイヤウニ、早く矢ノ方向ニ鉛筆デ辿ツテ一周リシテ下サイ、切レ切レニナラナイヤウニスルノデス、判リマシタカ

(「用意」で矢印の上へ檢者の手で鉛筆を當てさせて)「始め」で秒時計を進ませる

第三圖 技能學習力検査器 (實用新案118989)



- |        |         |        |
|--------|---------|--------|
| A. 目遮板 | B. 鏡    | C. 支柱  |
| D. 臺   | E. 検査用紙 | F. 用紙止 |





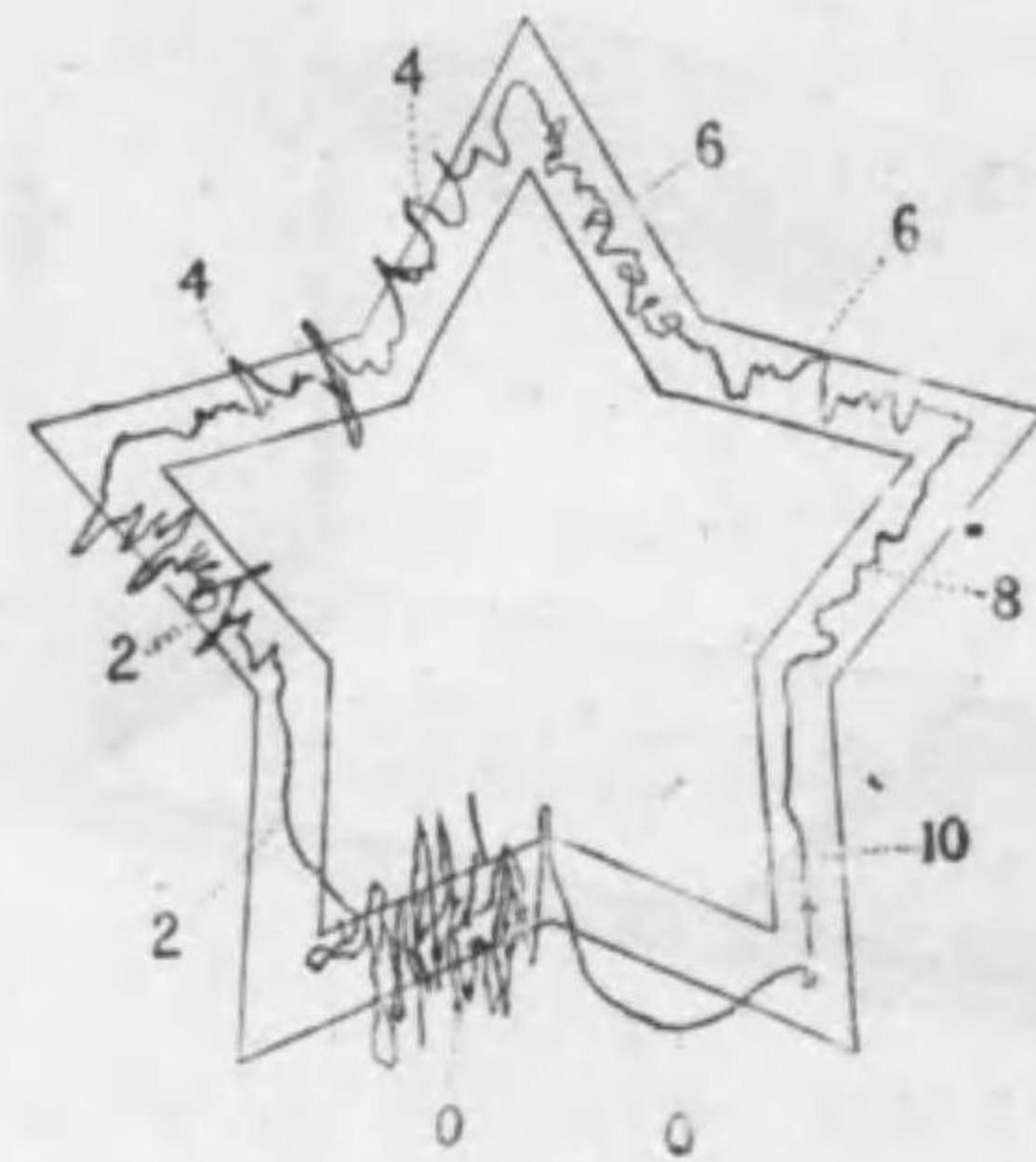
(検査の状況)

#### 採 點 法

全部書き終るまでの時間と、書いた線の質を検べて採點する。

「注意」 全部書き終る時間が短かくても出来ばへが不良のものは手先仕事には不向の質とする。質の採點には偶數丈けを用ゐる(基數を用ゐると採點が困難となる)

#### 採 點 標 準 圖 型



(以上星形は十廓より作られてある)

- 10 點 = 線間を筆を返へさずしに稍や直線に進み得たもの
- 8 點 = 二三個筆を返した曲線あれども進み得たもの
- 6 點 = 多くの曲線あれども脱線せずに進み得たもの(黒くなつたものを含む)
- 4 點 = 8 點に相等する曲線にして脱線ありたるもの
- 2 點 = 可成り多くの曲線と多くの脱線あるも目的の方向へ進み得たもの或は(圓型十廓中)ある一廓の三分の二迄進みたるも隅角に達せずして脱線したるもの(隅角の脱線は時間上に有利なるが故に線の質は良くとも該點すべきである)
- 0 點 = 一廓の三分の二に達せずして脱線し或は進退の識別し難きもの等

### 4. 運動速度検査

#### 目 的

手腕の運動速度と持久力を検査する。

#### 用 具

運動速度検査器 ストップウォッチ を用ゆる

#### 器械の構成

本器は正確なる度數計の鍵の部に棒を添へてあつて、押す度に一數字づゝ加へられて、一定時間中に押叩した數字を直ちに讀み得られるものである。又捻栓を廻せば全部零に戻る仕掛に出来てゐる。

#### 検査方法

被検査者を机の前に腰掛させ、器臺の位置を斜めにして之れを左手で押へさせ、右手の指で棒を握ませ、右腕の臂を机の上につけさせ、出来る丈け早く押叩させる。そして臂が机から離れないやう注意を與へる。

#### 説明語を與へる

「説明語」 貴方ノ指デコノ棒ヲ持ツテ私が「止メ」ト云フマデ出来ル丈ケ早く突イテ下サイ、判リマシタカ

練習を十數秒して検査にかゝる

用意「始め」でストップウォッチを進ませ

#### 採 點 法

一分間に押叩した數で採點する。



第四圖 運動速度検査器



(検査の實況)

## 5. 握力検査

### 目的

力量を検査する。

### 用具

コリン氏握力計 (兒童用)

### 検査方法

目盛のある方を手掌に面せしめ、鉄のある方を第二指節の指と指との間にあてさせ、一方を示指と母指との間に當てし握らせ、身體は直立姿勢、兩足の間に自分の片足がはいる程開かせ、手は身體に接しない様にして、除々に強く握らせる。

### 採點法

右手、左手で交互に各二回づゝ検査して高い方の點を得點とする。

(成績は「キログラム」で表はれる)

第五圖 コリン氏握力計



茲にスメドレー式握力計を紹介する。

スメドレーは大人小人兼用であつて握柄部の外框と内框の廣さ(間隔)を被檢者の手の大小に適合する様任意に調節が出来、且つ握柄部太きため手掌に痛さを感じざるにより全握力値を完全に測定し得る點並にタンブールとカイモグラフを併用せば上記検査の外更に連續的の握力をも測定し得るゝ特徴を有するものである。圖面は卷末體力測定器械の頁参照。



# 感 覺 知 覺

## 6. 聴 力 検 査

### 目 的

聴覚の鋭鈍を検査する。

### 用 具

聴覚計 抵抗器付メーター 電池 を用ゆる

### 器 械 の 構 成

聴覚計は二重コイルであつて電導鍵を押せば電流は通じ難せば閉づるやう出来てゐて之れに受話器を添へてある。

各器の接続方は 赤紐コードを電池の(+)と、メーターの(+)記號の處に狭み。

黒紐コードは其他の接続に用ゆる。

### 電力をいつも一定せしむる方法

メーターのスイッチを meter と記してある處につなぎ、メーターに現はれる指針の示度が「聴力」と記してある目盛を指示するまで調節器を廻して調節し、然る後スイッチを Test と記してある方へ切り替へて検査する。(調節するには電導鍵を押し乍ら行ふ、若し指針が「聴力」とある目盛に達せざるときは電池を取り替へべきである)

第六圖 聴力検査器 (實用新案110060)



- |            |                        |
|------------|------------------------|
| A 器 箱      | I メーター                 |
| B 指針付強弱加減器 | J 電池接続ターミナル (十より)      |
| C 目 盛 盤    | K 同 ターミナル (Aより)        |
| D 電 導 鍵    | L 切替スイッチ (メーターとテストの兩用) |
| E 受 話 器    |                        |
| F 同 保 持 板  |                        |
| G 抵抗器付メーター |                        |
| H 抵抗加減器    |                        |



(検査の實況)



### 検査方法

被検者に聴覚計の指針と電導鍵の動きを見せぬために横向姿勢に腰掛けさせる。受話器を耳に當てさせ、その上から二本の指で軽く押へさせる。

電導鍵は机の下又はポケットに入れて鍵の押し放しは半秒に一回位の速さで、指針の進ませ方は一目盛二秒位とする。

説明語を興へる 註(最初は刺戟の強い方「50度の處」から弱い方へ)

音が聞エルデセウ。ドンナ音が聞エマスカ、コレが聞エナクナツタラスグ知ラセテ下サイ、知ラセル方法ハ机ヲ指先デ打ツテ下サイ、

目ヲ閉ヂテ

次には

註(刺戟の弱い方から強い方へ)音が聞エ始メタラスグ知ラセテ下サイ

指針の進ませ方はは最初 50 度の處から 0 度の處へ、次には 0 度の處から 50 度の方へ、三回目は「前と反對の方向に」0 度の處から 50 度の方へ、四回目は前の感度より十數度進ませた處から 0 度の方へ、行なふのである。

### 採 點 法

右、左各々(四回)検査して

指針の示度の平均値を成績とする。

## 7. 視觸覺辨別検査

### 目 的

目で視つゝ觸覺によりて辨別する能力を検査する。

### 用 具

メダル分配器、メダル入皿、秒時計 を用ゆる。

### 器械の構成

大きさと厚さの異なるメダル五種、總數五十個と、メダルに相應した五つの穴のある箱と、メダルを入れる皿とから成り立つてゐる。

### 検査方法

被検者を机を中に腰掛させ、最初メダルを皿に入れ、同種のもが同一個所に集まらないやう振り混ぜる、

左手で箱を押へ右手で出来るだけ早く入れさせるのである。

### 説明語を興へる

「説明語」コ、ニアルメダルヲコノ穴ニ入レルノデスガ、ドノ穴カラデモ遺入ルノデハアリマセン、メダル一ツハドレカコノ内ノ一ツニハイリマス、左手デ箱ヲ押へ、右手デ一個ヅ、持ツテ、出來ル丈ケ早く全部入レテ下サイ。判リマシタカ用意デ一個ヲ持ツテ「始め」の發令と共に秒時計を進める。

### 採 點 法

全部を入れるに要した時間で採點する。

第七圖 視觸覺辨別検査器 (特許44290)



(検査の實況)



## 8. 空間辨別検査

### 目的

精密目測の確否を検査する。

### 用具

精密目測計

### 器械の構成

表面には上に二本の縦線があり、其の間は二欄である。下の一本の縦線は遊動板に刻まれてあつて、今この線を真中へ運ばせて上の二線の間を二等分させるのである。又裏面には、二欄の間を耗の度盛があり尙、捻栓の基には二十分の一耗の目盛とがある。

捻栓を右に廻轉すれば遊動板は進み左に廻せば戻るやう出来てゐる、捻栓の一廻轉は一耗である。

### 検査方法

被検者には明るい位置を與へ、検査者は、本器裏面の度盛を見て、最初は移動線を「5」の處に置き、次には「五」の處に、三回目も「五」の處にかくして最後には再び「5」の處に置きて、被検者をして二等分せしめるのである。

被検者の器の持ち方は、左手の指示と母指で器を掴ませ、中指で下から受けさせ、小指を机の上に着けさせ、右手で捻栓を持たして自分で調べさせる。

### 説明語を與へる

上ノ方ニ縦ニ二本ノ平行シタ、動カナイ線ガアルデセウ。下ノ方ノ一本ノ縦線ハ捻栓ヲ廻セバ動キマス。

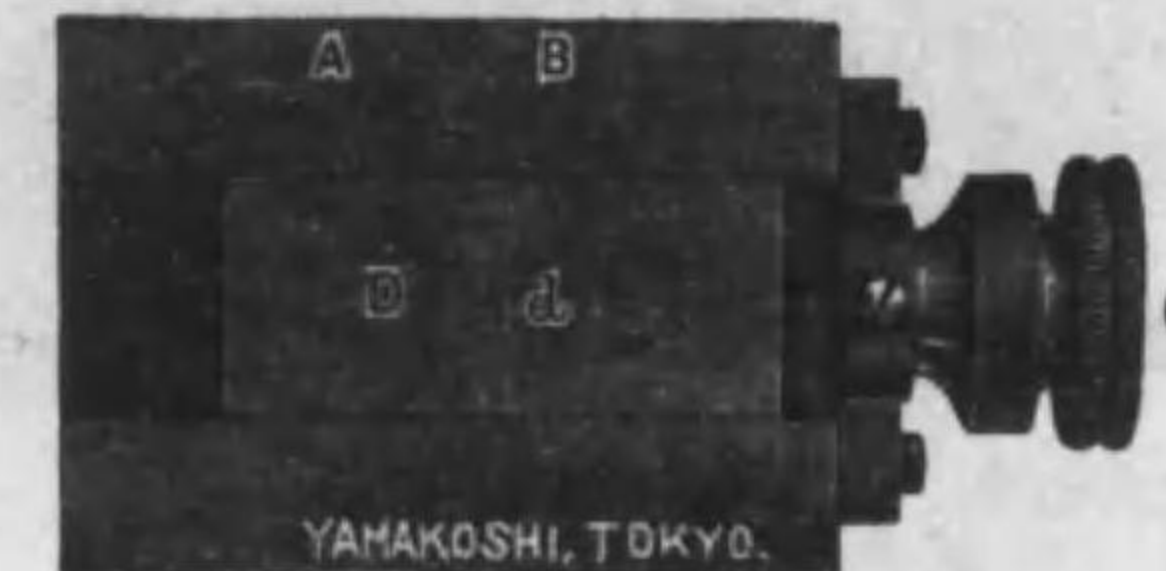
今コノ捻栓ヲ廻シ乍ラ、下ノ線ヲ上ノ二本ノ恰度真中ニ持ツテ行ツテ下サイ。之レデヨイト思ツタ時ソノマ、捻栓ヲ持タナイデ私ニ渡シテ下サイ。

判リマシタカ 「始め」

### 採點法

四回検査の平均値を目測の價とする（成績は、右寄 0.幾耗、左寄 0.幾耗となる）

第八圖 精密目測計（實用新案116737）



A 間。2cm. 目盛線  
B 移動盤  
C 移動盤捻栓  
D 移動盤  
d 移動線



（検査の實況）

## 9. 光度辨別検査

### 目的

視覚に感ずる光度の辨別力を検査する。

### 用具

光度辨別検査器 と其の クランプ、抵抗器付モーター、電池



### 器械の構成

本器は暗箱内に電燈が装置され、外部よりその位置を自由に指針と共に移動出来る、前方には覗筒があり其の奥に二個の窓があつて電燈の光はその窓に映じてゐる、今指針を度盛零度の處へ置けば二個の窓に映する光は兩者に均等である。  
(各器の接続方は「聴力検査」の頁を参照)

電力をいつも一定させるには

メーターのスイッチを meter と記してある處に接続させ指針が「光度」とある目盛を指示するやう調節して、次にスイッチを Test の方へ切り換へて検査を始めるのである。

注意 (検査の終る度にスイッチを meter と Test の中間にある絶縁部に置き替へれば電池の消費量は軽減出来る)

### 検査方法

本器は被検査者の身長の高さに適合する位置に「クランプ」にて取り着けて、顔は覗筒に當てさせ、二つの窓を注視させ黒布を頭から被らせ両手で其の上から筒を握らせる。指針を度盛零度の處に置きて。

### 説明語を興へる

「説明語」二ツノ窓が見ヘルデセウ。コノ光度ヲヨク記憶シテ下サイ、コレが段々變ツテ一方が他方ヨリモ明クナツタト思ツタ時、次ニハ二ツノ窓ノ光が一様ニナツタ時ニ合圖ヲシテ下サイ、合圖ハ右、トカ左、ト云ツテ下サイ、

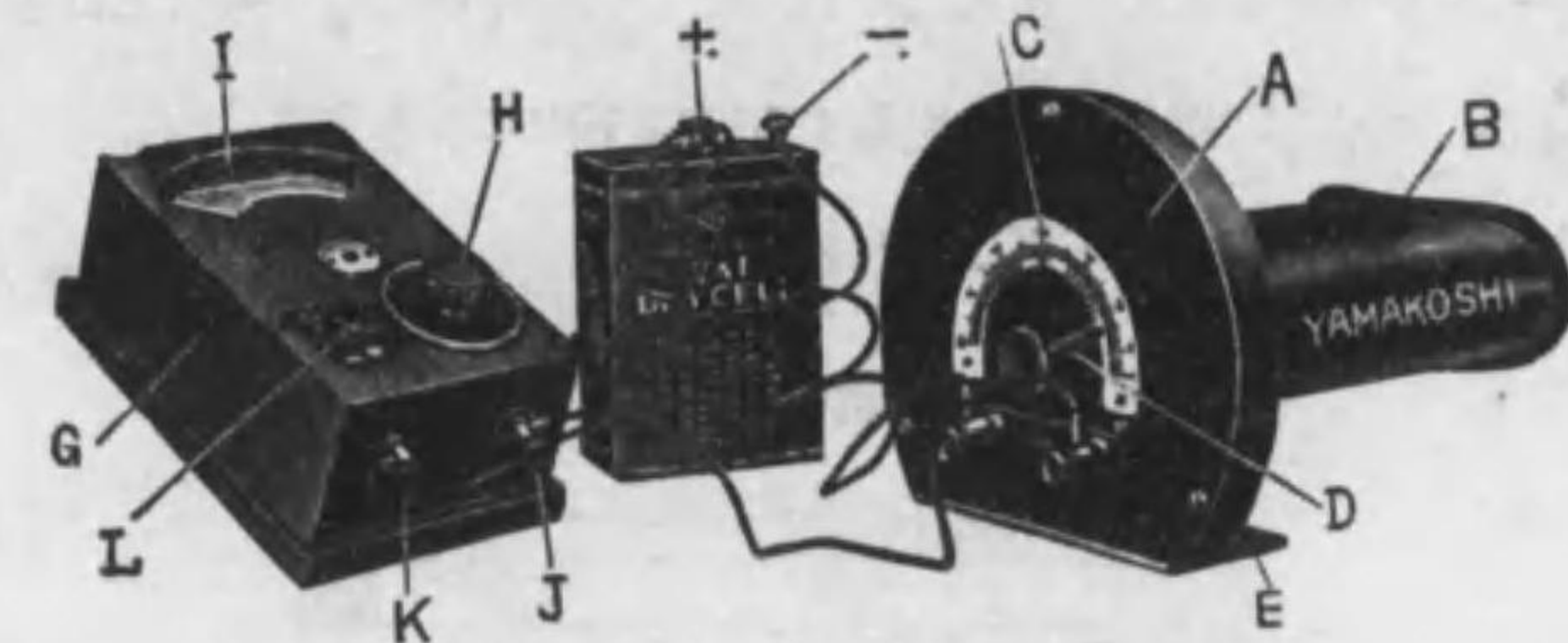
判リマシタカ 用意一

### 採點法

最初は0度の處より右に進ませ次には0度の處より左に進ませ第三回目は二回目と同じく第四回目は最初と同じに行ふ。運針の速さは一目盛に付二秒位を適當とする、而して

四回検査の平均をとつて識別能力の指數とする。

第九圖 光度辨別検査 (實用新案113480)



- |             |                        |
|-------------|------------------------|
| A 暗箱        | H 抵抗調節器                |
| B 覗筒 接眼部    | I メーター                 |
| C 目盛盤       | J 電池接続ターミナル(電池+より)     |
| D 指針(電燈移動栓) | K ターミナル(暗箱(A)より)       |
| E クランプ 挟板   | L 切替スイッチ (メーターとテストの兩用) |
| G 抵抗器付メーター  |                        |



(検査の實況)

## 10. 觸覺検査

### 目的

觸覺の鋭鈍を検査する

### 用具

觸覺計

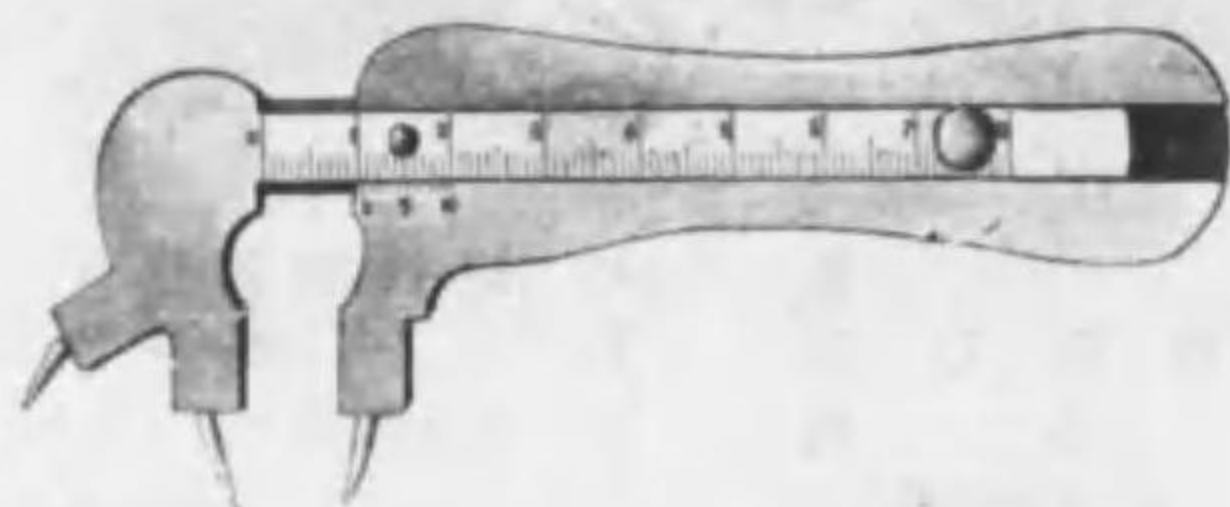
### 検査方法

被検査者を眼目させ、器を一耗乃至一耗半の目盛にして、各指先の觸覺を測り、二點



を感じるを普通とするも、若し二耗以上にて二點を感じない場合には何にか原因があつて、今直ちに指先仕事に従事するには不向な質とする。  
尙、本器は身體検査器として用ひられる。

第十圖 觸覺計



## 11. 色神検査

### 目的

色盲及色弱の質は全人口の5%に達する、色彩を必要する職業に従事するには欠可からざる検査である。

### 用具

色盲検査表 (石原式)

### 検査法は

本書に詳しく記してあつて誰でも容易に検査し得られる。

## 12. 視力検査

### 目的

視力の検査は職業指導上緊要なるものである、視力によつて職業の範囲が定まる場合が多い。

### 用具

萬國式日本試視力表

### 検査方法

北向の高い大きな窓の測の壁に表を吊し、表と被検査者の距離を五米とし、目の片方

宛検査する。詳しくことは本表の説明書に記してある。

### 採點法

視力表數字により得點を定める。

## 精神機能

### 13. 記憶力検査

### 目的

記憶の種類は、機械的と論理的とあるが、こゝでは機械的記憶を検査する。而して實驗回数によつて反覆の効果あるものと、然らざる質等があらはれる。

### 用具

記憶力検査器 整理用紙 メトロノーム 秒時計 を用ゆる。

### 器械の構成

本器は撥條仕掛で出来てゐる。前面の扉を開けて刺戟盤を取り着ける、裏面中央の鍵を巻き止りまで捲きしめ(一捲終れば十回轉する)其の下方にある露出栓を押し放しすれば刺戟は順次に前面の窓に露出する。前面に向つて右手の窓は本検査に用ひ左手の窓は特種検査の場合に用ゆる又裏面の窓は検査者の便利のために設けてある。メトロノームの重錘を60の目盛の處に調節すれば一振幅は二秒となる、是も折々鍵捲を要する。(検査者は露出時間の手加減で刻る様になれはメトロノームを用ひないでもよい)

### 検査方法

被検査者を机の中に腰掛させ、器の前面を被検査者に向け、窓を開け刺戟盤の黒星を注視させる。刺戟盤には三文字づゝを一組とする數字が五種列んでゐる(中學程度用には十種のものが適合する)此の刺戟を二秒毎に露出させ(露出時間はメトロノームで決める)全部露出し終るとメトロノームを止めて記憶してゐるのを順序正しく答へさせ検査は逐一整理用紙に記入する(検査は一人に對し十回を限度とする)。



**説明語を與へる**

「説明語」 コノ窓ノ星ノアル處ニ三文字宛ノ數字ヲ組合シタノガ順々ニ出テ來マ  
ス。之レヲ聲ヲ立テナイデ讀ミ乍ラ順序正シク記憶シテ置クノデス、ソレカラ文  
字ガナクナツタラ覺ヘテ居ルノヲ順々ニ答ヘテ下サイ。途中ニ忘レテキルノハ  
「忘レマシタ」ト云フテ次ノ數字ヲ答ヘルノデス 判リマシタカ。

(假に五回で全部を記憶し得たとするも順序が正しからざる時は更に検査を續けるのである)。

「注意」 被檢者ノ答ガ正否ニ拘ハラズ檢者ハ一々「ハイ」と應答を與へる。又答ガ止つたなら「次は」と促して同時に秒時計を進め十秒間に答ガ得られなかつたときは、記憶なきものと認める。

**採 點 法**

十回ノ検査ニ全部を順序正シク記憶したものは回数で記し、終りまでに全部を記憶せざるものは其の中の最高組數を成績とする

例は  $\left\{ \begin{array}{cccc} \text{I} & \text{II} & \text{III} & \text{IV} \\ 2 & 3 & 4 & 5 \end{array} \right\}$  四回にして全部記憶し得たものは四回を成績とする

$\left\{ \begin{array}{cccccccccccc} \text{I} & \text{II} & \text{III} & \text{IV} & \text{V} & \text{VI} & \text{VII} & \text{VIII} & \text{IX} & \text{X} \\ 0 & 1 & 2 & 3 & 2 & 3 & 2 & 1 & 2 & 2 \end{array} \right\}$  十回中最高記憶は3であるから3組を成績とする

**成績を採點する方法**

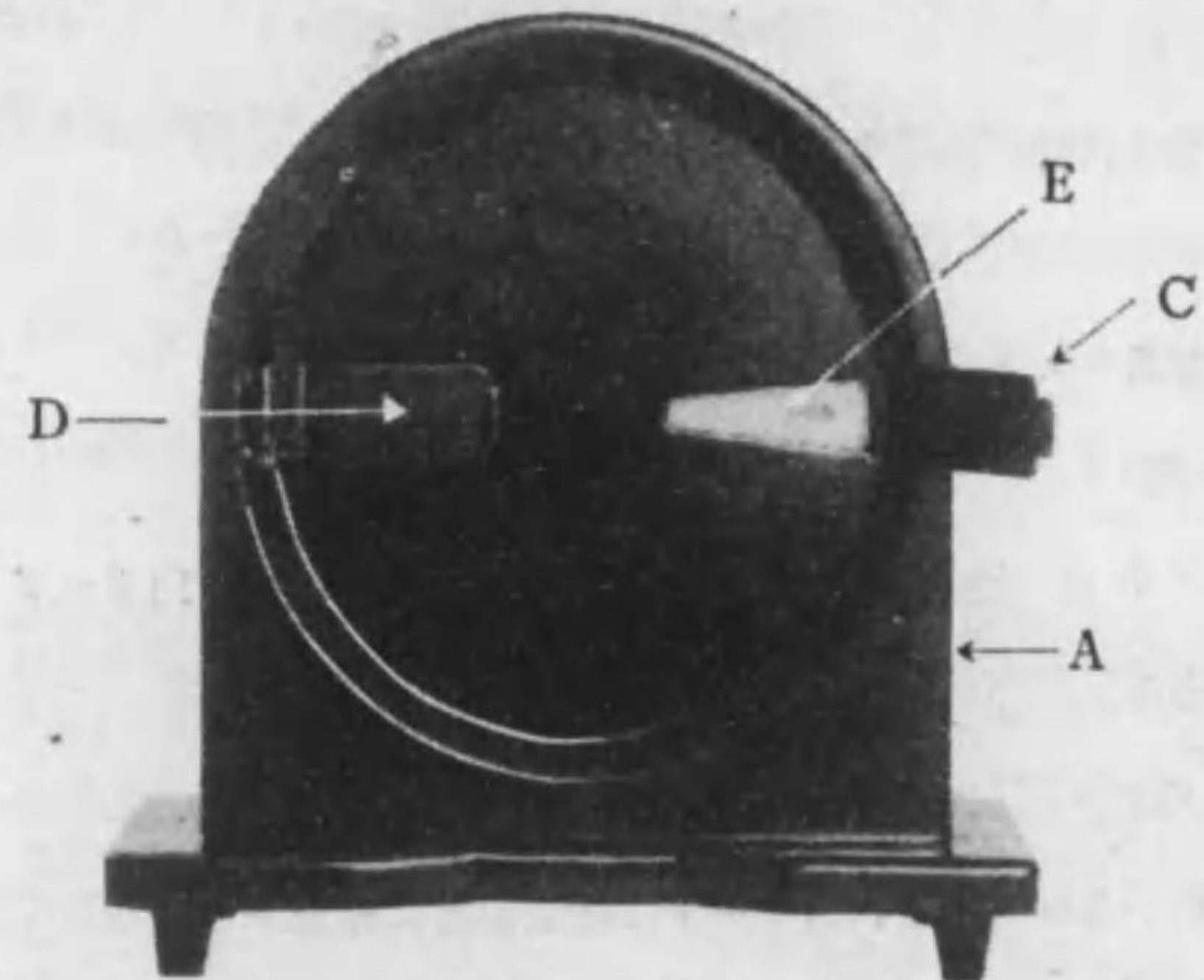
一回目で順序正しく全部を記憶したのを 1. として順次十回目を 10. とする。十回目に於て全部記憶したるも順序の正しからざるものを 11. とし、組數記憶の四を 12. 三を 13. 二を 14. 一を 15. とし、この 1. より 15. に (改めて) 回稱を附する。(組數採點には順序不正であつても採點するのである)

即ち 1. 回を最高點とし 15. 回を最下とする。

注 意 刺戟盤にはA式とB式があり折々取替へて検査するのによい又何にか必要を認めた場合に用ゆる。

年少者多數の検査には二文字又は一文字刺戟を用ひ上記の検査法を行ふもよし或は刺戟を連續三回露出せしめ被檢者には其の答を用紙に記録せしめ正當數を成績とする検査法を用ふる便法もある。

第十三圖 記憶検査器 (實用新案108003)



A 衝立 D 窓覆(特種検査用)  
B 露出栓(本器裏面の下方にある)  
C 窓覆 E 刺戟盤



(検査の實況)



## 14. 選擇力検査

### 目的

形態の観察と比較辨別をする能力を検査する。

### 用具

カード分配具 ストップウォッチ を用ゆる

### 器具の構成

基準カード 3 枚 検査カード 25 枚 練習カード 1 枚 白カード 1 枚 から成り立つてゐる。

基準カードは○□□の三種あつて、検査カードはこの三種のものが一定の標準の下に九つ組合されてゐる、白カードは検査の際に検査カードを覆て置くに用ゆる。

### 検査方法

被検者を机の前に腰掛けさせ、基準カードは左から右へ(裏面の ABC の順に)各間隔を 5 欄位にとり、被検者の机の端から 30 欄位遠さけて並べる、検査カードの上には圖の見へないやうに白カードを載せて置き

### 説明語を與へる

「説明語」 コノカードニハドレニモ机ノ上ニアルヤウナ三ツノ形カ九ツ組ミ合セテアリマスガ、ドレカ數ノ多イノト、少ナイノガアリマス、ソレヲ早く見分ケテ假ニ○ガ一番多ケレバ○ノ形ノ前に置キ□ガ多ケレバ□ノ前ニ出來ルダケ早く間違ハナイ様ニ分ケテシマウノデス。判リマシタカ

### (練習を行ふ)

「コノカードハドノ形ノ前へ置ケバヨイデセウカ」と云ふて練習カードを渡す被検者が○の前に置けば理解したものととして検査を始める。

### (検査)

検査カードを被検者の左手に握らせ同時に用意で、検査者は白カードに手を懸け「始め」で取り去り同時にストップウォッチを進める。

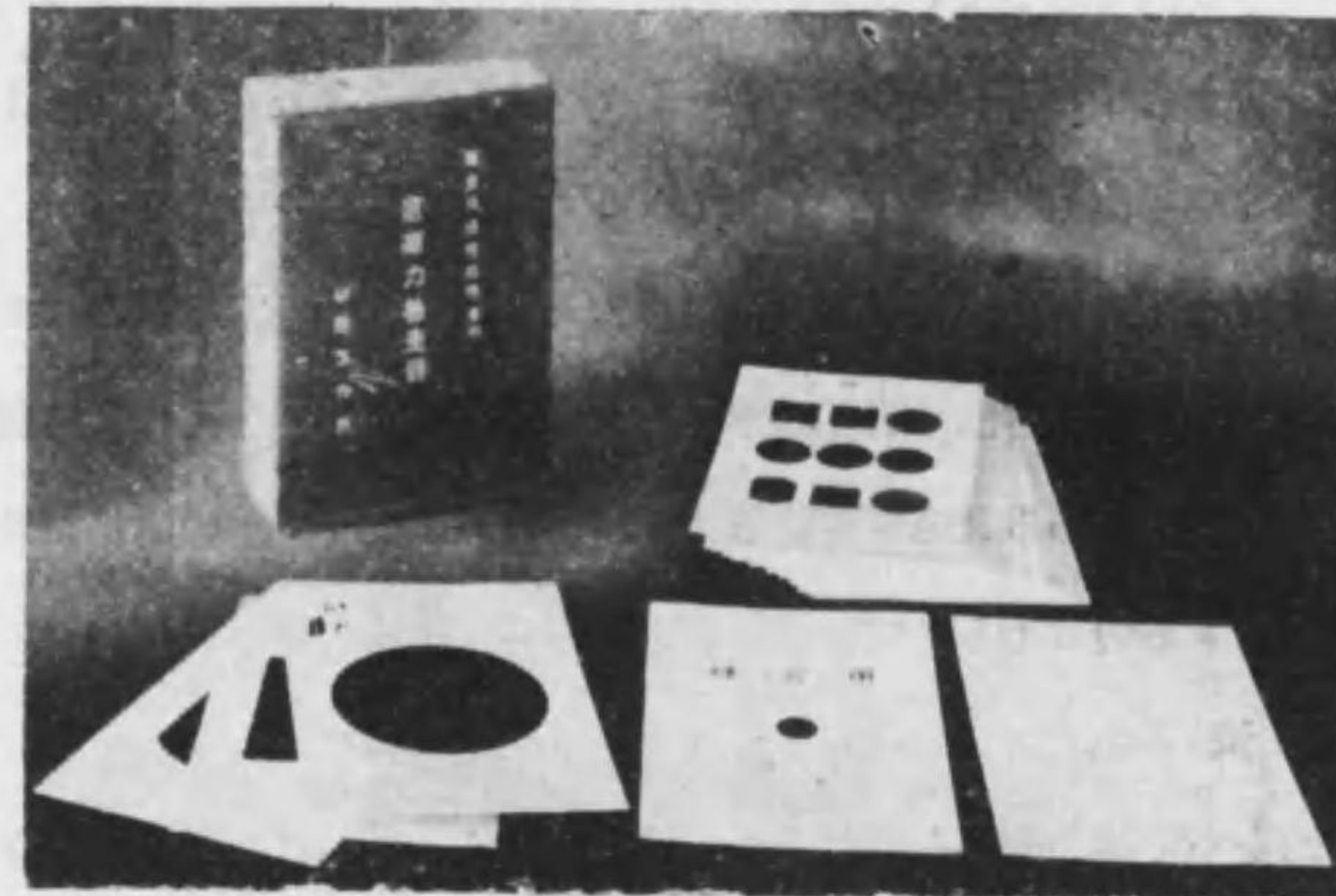
### 採點法

全部選別し終る時間と誤配數で採點する。

分配の誤はカード裏面の記號で判る百點を滿點として誤配一枚に付四點減する。

(誤配の有無の取調と次の検査の準備)被検者が分配し終つたカードを其の儘全部裏返しにして裏面の記號によつて誤配の有無を取調べ然る後番號順(1.—25.)に検査者は左手に取り集め其の表面を上にして直ちに白カードを其の上に乗せて机の端に置いて次の検査を始めるのである。

第十四圖 カード分配具



(検査の實況)



## 15. 注意力検査

### 目的

注意の深さと廣さがどの程度まであるかを検査する。

### 用具

瞬間露出器 及 刺戟數枚・を用ゆる。

### 器械の構成

シャッター仕掛であつて、後方より刺戟を挿し込みレリーズを押す度にシャッターは狭い方から廣い方に順序に（第一シャッターから第五シャッターまで）五回變つてゆくやう出来てゐる。

第一シャッターとは露出の巾さが5耗で、第二は10耗、第三は20耗、第四は40耗、第五は100耗、（第五は本検査には使用しない）であつて捲軸の標示板にそれぞれ記してある又速度調節器は本器の最高速度「6」の處に指針を向けさせて検査をするのである。

### 検査方法

被檢者の左手で器の側方を持たしめ「練習を行ふ」最始は練習用刺戟を入れて第一シャッターから第四シャッターまで檢べて被檢者に検査要領を會得せしめ

「第一検査」は一文字刺戟で注意の深さを檢べ

「第二検査」は六文字刺戟で注意の廣さを檢べる

（刺戟は一文字のもの三枚、六文字のもの二枚あり時々取替て検査する、前者が後者に検査刺戟を傳へられる恐れがある、よく注意すべきである）。

### 説明語を與へる

「練習」 今此ノ幕ガ下ガル瞬間ニ後ニアル白紙ニ何ニカ小サイ形チガ見ヘマス、ヨク注意シテ見テ居テ下サイ。

（被檢者が黒點を認識出来たら検査にかゝる）

「第一検査」 片假名ノ一文字書イテアリマス注意シテ讀ンデ下サイ。

（第一シャッターから第四シャッターまで順次に検査して假に第二シャッターで認識「正答」出来たれば次の検査に移る）

「第二検査」 片假名ガ横ニ澤山書イテアリマス注意シテ讀メルダケ讀ンデ下サイ。

（第四シャッター丈けで検査する）

### 採點法

「第一検査は」 第一シャッターの認識を百點とし順次二十五點宛減する。

「第二検査は」 六文字全部讀み得たものを百二十點とし一字減する毎に二十點へらす。

第十五圖 注意力検査器



簡便採點法（本法は受験票記入の際の便法であつて成績上には上記の法と同じである。）

「第一検査は」 第一シャッターの認識を一回とし以下二、三、四回とする。

「第二検査は」 六文字全部讀み得たものを六字とし以下五、四、三、二、一字とする。





(検査の實況)

## 16. 構成力検査

### 目的

観察と想像と工夫との総合した能力を検査する。

### 用具

嵌木盤 ストップウォッチ を用ゆる。

### 器械の構成

本器は形態の異なる六個の形を刳抜いた、盤二枚と之れに組入られる二十八個の小片から成り立つてゐる。

### 検査方法

被検者を机の前に腰掛させ、器は蓋したまま裏返しに置き盤の手前を持ち上げて小片を蓋の上に圖の如く置き（この操作は被検者に配置具合を見させないためである）圖の下方を被検者の方に向け、小片は盤の右側に並べる。（小片の中「イ、ロ、ハ」の三個は各個其の大なる方を裏返しに移動させ、他のものは大凡圖の如く各々其の場所で不整にくづす）左手で箱の縁を押へ、右手丈けを用ひて出来るだけ早く全部を嵌め込ませるのである。（左利は之れと反対に行ふ）

### 説明語を與へる

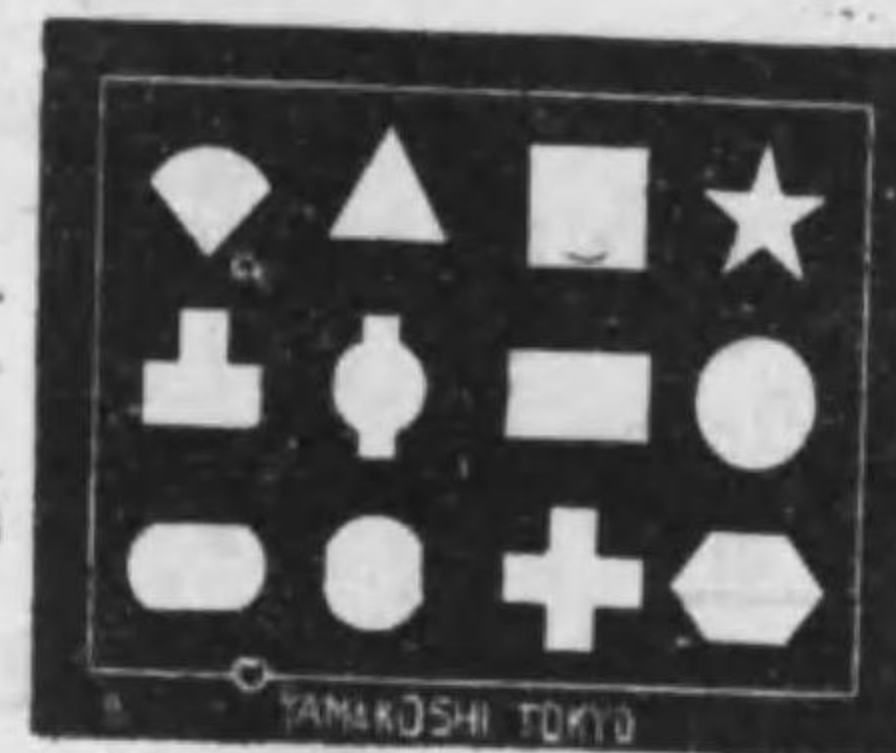
「説明語」 コノ右側ニアル小片ヲコノ盤ノ穴ニ組入レルト足ラナクモナシ、餘リモシナイヤウ都合ヨクハイリマス。

左手ハ盤ノ縁ヲ押ヘテ、右手丈ケデ出來ル丈ケ早く入レテ下サイ。用意—「始め」の發命で秒時計を進め

### 採點法

全部を完全に入れ終るまでの時間で採點する。

第十六圖 嵌木盤 (意匠34329)



(検査の實況)



## 検査の準備と査定

検査を始めるに先ち、受験票を被検者の員数だけ用意して被検者各自に持たせ、各検査の都度検査者は欄内に記入し、終りに被検者から取り戻す。

受験票に示す順序は本器一組の検査を行ふ検査順序であつて實驗の結果によつて作成したものである。

## 受験票の記入法

記入の仕方は各種検査の採點法を参照し其成績を記入し品等欄には検査點數表と對照して A B C D の何れかを記入するのである、検査點數表の Q<sub>1</sub>、Q<sub>2</sub>、Q<sub>3</sub> (Q は Quarter 「四分」の標字)を圖示すれば次の様になる。



検査點數表は東京市内數校に於て得たものである。

## 受 檢 票

籍番( ) 年 組姓名

順序	種目	成績	品等	所見
1	聽力	右		
		左		
	空間	右窩		
		左窩		
7	光度			
8	視觸覺	分	秒	
14	觸覺	右		
		左		
4	反應			
9	學習	時	分	秒
		質		點
10	作業速度			本
12	運動			
13	握力	右		
		左		
2	記憶力			回
5	構成力		分	秒
				點
6	注意力	深		點
		廣		點
11	選擇力	時	分	秒
		質	誤	點
備考				

受験票所見欄に記入する事項は大約次の通りである

### 個性

氣質 溫順—強情 剛毅—優柔 着實—放縱 銳敏—遲鈍 快活—沈鬱  
寡慾—多慾 勇氣—怯懦 大度—狹量 忍耐—倦怠 沈着—輕率  
進取(富乏) 意志(強弱) 決斷—不決斷 寬容—短慮

心性 清潔—不潔 勤勉—怠惰 守命—違命

行爲 組織的—場當りの 正直—不正直 世才(富乏) 禮儀—非禮 規  
律—不規律 緻密—粗暴

言人 語柄力 明瞭—不明瞭 丁寧—粗雜 高聲—低聲  
高尚—普通 野卑  
強壯—病質—持久性—疲勞性



## 検査成績と學業成績の關係に就て

検査目的の中にて誰人でも一樣に望まらるゝ處は被檢者各個の性能上に於ける長所短所を見出すことであり、之れが學術上にも亦擔任教師の觀察や學業成績とも合致し然も分析的に證明せらるゝことを望むことでありませう。

茲に本検査の上に多年研究努力せられたる當市赤坂區赤坂高等小學校に於かせられては既に數年前から種々の得難い實績を擧げさせられて居り、

下谷區下谷高等小學校では毎年千七百餘人の検査の結果が學業上にも觀察上にも略一致して然も分析的に各兒童の長所短所を發見し之れを圖表にして各家庭と協力し時代に適合する教育を行なはせらるゝに至りました、

最近福井縣武生尋常高等小學校、堺市湊小學校よりも同様の御發表も得ました、更に大阪市の數校、等に於かせられても検査點數表を發表せられたに徴しても相當の効果を擧げて居らるゝことと信じます。

東京市教育局では當市高等小學校全部には既に性能検査器械を設備せられ、尙又尋常小學校よりも種々御設備の御用命を寄せらるゝに至りましたことは獨り弊所の名譽のみならず教育上兒童の幸福如何ばかりかを誠に喜びに堪へない次第であります。

希は本法御使用の方々に於て検査成績御作成の上は弊所性能研究部宛一部御郵送下さる様御願致します。

## 検査上の注意

1. 凡て検査は嚴正綿密な事が大切であつて、粗雑な検査を行ふことは深く戒めねばならない。器械が如何に精巧であつても検査の仕方が粗雑では良き結果を得られないのみならず、誤つた検査は被檢者を不幸に陥らせる危険がある。要するに此の種検査は器械を有意義に使ひこなすことが主要な條件であつて、この器械を善用化することは檢者の誠實なる努力によるの外はない。

例へば

茲に構成力検査をすることとして被檢者が組織的にやるものと、これと反對に、行き當りのにやる質とあるとする。斯る場合其の成績に於ても相違は現はれるが、尙此の作業中検査の觀察上に得る所が尠くない。是等を受験票の所見欄に記して考査上の参考とするのである。檢者は各検査毎に注意深き觀察をすべきであつて、之れに依つて各人個性の長所短所心身の強弱度等も見出し得られ、愈よ深き研究に入れば謂ふ可からざる個性上の面白き發見も出来ることとなる。

2. いま兒童が或る職業、例へば寫眞師を望んで來たとする。その時に最後に附けてある職業分析表を照合して、先づ智能指數がどの位あるかを調べ、Cあればよい。次に空間辨別 B 光度辨別 A 運動速度 B 作業速度 C 視觸覺辨別 C 色盲なし、視力 A 位の成績が得られれば適業としてその方面に進ませてよい譯である。然し乍ら今述べただけの性能を持つてゐるからこの兒童は寫眞師となすべしといふ逆な考へ方をしてはいけない、この點は特に注意されたいものである。

尙茲に示す職業分析表は廣き範圍より論ずれば僅かに其の一端に過ぎないのであつて、今後世の進歩につれて増々新らしさを加へるべきであるが、此の調査こそ容易ならざる仕事であつて何れ主務當局の力によつて完成さるべきものと考へる。依つて現在に於ては之れを参考とするのである。

## 検査器の手入と消毒

1. 検査後は直ちに器械を手入し置くことが肝要です、金屬製のものは汗と手の脂にて錆びやすいによつて、使用後は綿布にて充分拭ひ去り、然る後ワセリン又はミネン油を布に付けて軽く拭き置くこと。

2. セルロイド製のものは石鹼で洗ふかアルコールを脱脂綿又はガーゼに付けて消毒なすこと。

3. 握力計は脱脂綿又はガーゼにアルコールを付けて拭ひ、消毒して次の検査を行ふをよしとす。



高等小學一年生性能検査點數表

性 別	男			女			
	Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>	Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>	
聽 力	右	13.°469	9.°750	6.°750	9.°375	7.°194	5.°188
	左	13.°083	8.°589	6.°600	10.°038	7.°484	5.°687
記 憶 力	同	13.°854	12.776	11.769	13.213	12.067	8.958
	同	0.289	0.202	0.139	0.255	0.171	0.138
空 間 辨 別	同	8.560	7.920	7.090	10.833	8.900	7.407
	同	8.560	7.920	7.090	10.833	8.900	7.407
構 成 能 力	同	4'59.°750	3'34.°000	2'39.°083	5'49.°833	4'30.°500	3'35.°000
	同	38.400	74.575	95.325	26.525	66.950	91.325
注 意 力	(深サ)	17.920	37.720	53.920	19.410	38.000	57.520
	(廣サ)	13.°438	10.°708	8.°656	23.°625	19.°250	16.°500
視 觸 覺 辨 別	同	2'33.°962	2'20.°250	2'11.°275	2'49.°643	2'29.°900	2'14.°917
	同	5'30.°000	3'58.°500	2'49.°250	7'00.°000	4'50.°000	2'30.°333
學 習 力	(時間)	53.750	61.440	67.916	56.438	66.286	75.376
	(質)	56.432	59.734	64.166	61.142	64.222	68.332
作 業 速 度	(二分)	1'37.°250	1'24.°800	1'11.°000	1'25.°325	1'13.°375	1'02.°625
	同	93.538	97.276	99.788	90.500	93.304	99.224
選 擇 力	(正配)	289.250	313.333	333.583	238.667	307.832	323.500
	同	14.538	18.971	20.909	15.813	18.300	19.591
握 力	右	14.896	17.393	19.771	13.208	15.206	17.654
	左						

高等小學二年生性能検査點數表

性 別	男			女			
	Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>	Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>	
聽 力	右	9.°656	6.°964	5.°263	10.406	7.°522	5.°513
	左	10.°188	7.°100	5.°141	11.°417	7.°417	5.°333
記 憶 力	同	13.097	12.094	9.111	13.058	12.425	8.250
	同	0.294	0.232	0.153	0.271	0.211	0.122
空 間 辨 別	同	9.191	8.240	7.038	8.462	6.950	6.393
	同	4'28.°375	3'15.°000	2'29.°750	5'30.°000	4'01.°500	3'13.°000
注 意 力	(深サ)	58.036	76.613	96.938	42.917	72.778	89.973
	(廣サ)	32.308	51.304	72.619	31.°51	48.378	55.405
光 度 辨 別	同	12.°688	10.°006	7.°813	16.°563	12.°563	9.°084
	同	2'28.°463	2'14.°333	1'59.°750	2'37.°580	2'20.°750	2'9.°890
學 習 力	(時間)	4'04.°750	2'47.°630	1'50.°250	6'33.°000	3'54.°500	2'42.°000
	(質)	53.800	61.533	70.467	49.167	58.667	67.875
作 業 速 度	(二分)	57.704	60.874	64.703	60.666	63.832	68.046
	同	1'25.°179	1'15.°350	1'04.°321	1'31.°5000	1'15.°717	1'05.°383
選 擇 力	(誤配)	94.766	97.962	99.988	94.851	97.744	99.923
	同	289.625	313.500	331.400	277.875	300.000	322.250
運 動 速 度	同	18.411	21.273	24.177	14.708	17.300	19.969
	同	15.667	18.000	21.031	12.886	14.575	16.368

色盲表及視力表は各表に添附しある「説明書」に其の採點の記載あり

備 考 I. Q は Quarter 即「四分」ノ標字、Q<sub>1</sub> は劣の中數 Q<sub>2</sub> は全體の中數 Q<sub>3</sub> は優の中數點數とす

II. σ (シグマ) は秒の千分の一なり

III. ° は度の符號なり 例へば (24.°5) は 24.5 度のことなり

IV. Kg は (キログラム) なり



智能検査點數表

學 年	Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>	
男	尋 四	36.48	45.73	53.68
	尋 五	41.71	50.80	58.75
	尋 六	53.47	61.04	70.61
	高 一	55.02	63.11	71.55
	高 二	60.88	70.50	78.04
女	尋 四	35.59	42.57	50.52
	尋 五	43.67	51.83	58.79
	尋 六	52.50	59.37	67.25
	高 一	58.21	65.92	74.92
	高 二	61.91	69.34	77.60

職業分析表 (A) (一)

工 業	能力	憶別	應成	意別	覺習	度力	度力	力力	力神	覺							
	同	辨	度	觸	學	速	速	速	速	速							
	智	聽	記	察	反	構	注	光	視	技							
	作	選	選	操	視	色	觸										
大 工 職	C	C	C	B	B	B	C	C	C	B	B	C	C	B	無	D	
左 官 職	C	B	C	C	B	C	C	C	C	B	B	D	C	B	C	無	D
煉 瓦 積 職	D	B	D	C	C	C	C	C	C	D	C	D	C	B	C	無	C
ベ ン キ 塗 工	C	C	C	C	B	D	C	C	B	B	C	B	D	B	C	無	C
土 方	D	D	D	D	C	D	D	D	D	D	D	D	D	B	D	無	D
石 工	C	B	C	C	B	C	C	C	C	C	D	C	D	C	B	無	D
高 職	C	B	C	C	B	D	C	C	C	C	D	D	C	B	B	無	D
土木建築請負業	C	C	B	A	A	C	B	C	D	D	D	C	C	C	C	無	D
土木建築設計測量	B	B	B	A	A	B	B	C	D	C	D	D	C	A	無	C	
紙 (製作販賣)	C	D	D	C	D	C	C	D	C	D	C	C	C	C	無	B	
履 物 類	C	D	D	C	D	D	C	D	D	D	C	C	C	C	無	C	
洋 傘	C	D	D	C	D	D	C	D	D	D	C	C	D	C	無	C	
和 服 裁 縫	C	C	C	C	D	D	B	C	C	D	D	D	B	D	C	無	B
洋 服 裁 縫	C	C	D	D	D	D	C	B	C	D	C	C	B	B	B	無	B
製 涼 飲 料	C	D	D	D	C	D	D	D	D	D	C	D	B	C	C	無	D
清 涼 飲 料	C	D	D	D	C	D	D	D	D	D	C	D	B	C	C	無	D
離 詰 詰	C	D	D	D	C	D	D	D	D	D	C	D	B	C	C	無	D
ビ ー ル	C	D	D	D	C	D	D	D	D	D	C	D	B	C	C	無	D
砂 糖 製 造	C	D	D	D	C	D	D	C	C	D	D	D	C	C	C	無	D
英 子、パ ン	C	D	C	C	C	C	C	C	D	D	D	D	C	C	C	無	D
麵 粉、糖、湯 菜、海 苔	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	C	C	無	D

(注意) 表中實ハ色盲、弱ハ色弱、無ハ色盲ナキノ意ナリ。







職業分析表 (C)

タイピスト	B	B	B	B	C	B	C	C	B	B	C	C	B	B	B	B	C	B	弱	D	
會社事務	B	B	B	B	C	C	C	B	D	D	C	B	B	B	B	C	B	D	C	無	C
新聞雜誌通信者	C	C	C	B	D	D	C	B	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	盲	D
著述家	A	D	A	D	D	C	B	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	盲	D
畫家彫刻師	B	D	B	A	D	A	B	B	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	無	B
寫真師	C	D	C	B	C	B	B	A	C	C	C	C	C	B	C	C	A	無	無	C	
電信、電話交換手	C	B	B	C	B	C	B	B	C	C	C	B	C	C	B	C	B	盲	D		
醫師	A	A	A	B	B	B	A	B	B	A	B	B	A	B	C	A	D	A	無	A	
調劑師	B	C	B	B	D	B	B	B	B	D	C	C	C	B	D	B	無	無	C		
看護婦	C	B	C	C	B	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	弱	C			
按摩鍼灸	D	D	D	C	D	D	C	D	D	D	C	D	C	D	C	A	D	盲	B		
金融、銀行、保險員	B	B	B	C	C	D	B	C	C	C	B	B	B	D	C	無	無	D			
質業	B	C	B	B	D	D	B	B	C	C	C	B	C	D	B	無	無	B			
代金取立商	B	D	C	D	D	D	C	D	C	D	C	C	C	D	C	無	無	C			
媒介、興信業	C	D	B	D	C	D	C	D	D	D	C	D	D	D	無	無	D				
用、業	C	D	C	D	B	D	C	D	D	D	C	D	D	D	無	無	D				
ブローカー	B	D	B	D	B	D	C	D	C	D	D	B	D	D	無	無	D				
交通人力車夫	D	B	D	D	C	D	C	D	D	D	D	D	D	B	B	無	無	C			
自動車運轉士	C	B	C	C	A	C	A	B	C	B	C	D	B	B	B	無	無	C			
運轉取扱	C	B	C	C	A	D	A	B	D	D	C	D	B	B	B	無	無	C			
賃貸下宿、旅人宿	C	C	C	D	D	D	C	C	D	D	D	D	D	D	D	弱	D				
料理店、飲食店	C	D	C	B	D	B	C	C	B	C	B	B	C	C	D	無	D				
興業遊藝	C	C	C	D	B	C	C	D	D	B	B	B	C	D	盲	D					
娯樂理容	C	D	C	C	C	B	B	C	B	C	C	B	B	B	盲	B					
湯屋	D	C	D	D	D	D	C	C	D	D	D	D	D	D	C	盲	D				
其他、職業	能力	性	別	應	成	意	別	學	習	度	力	度	力	力	力	神	覺				
				辨			辨	學	速	速											
				間			度	能	業	動											
	智	聽	記	空	反	構	注	光	視	技	作	選	運	握	視	色	觸				

(注意) 表中盲・色盲、弱・色弱、無・色盲・ナキ・意ナリ。

特許性能検査器械  
改正定價表

		品名	定價
運動機能	1	反應検査器	40.00
	2	作業速度検査器	18.00
	3	技能學習力検査器	13.60
	4	運動速度検査器	25.00
	5	握力検査器(コリン式)	10.00
感覺知覺	6	聽力検査器	22.50
	7	視觸覺辨別検査器(メダル入皿付)	8.50
	8	空間辨別検査器	31.00
	9	光度辨別検査器(クランプ及覆布付)	16.00
	10	觸覺検査器	5.00
	11	色神検査表	3.00
	12	視力検査表	70
精神機能	13	記憶力検査器	17.50
	14	選擇力検査器	6.00
	15	注意力検査器	30.00
	16	構成力検査器	9.00
附屬具	メトロノーム(記憶検査用)		17.00
	ストップウォッチ(各種検査用)		18.00
	抵抗器付メーター(聽力、光度検査用)		27.00
	乾電池(聽力、光度検査用)		2.20
	格納箱(十六種及附屬具携帯用)		30.00
以上各品種選抜御注文隨意			合計 350.00
香外品	スメドレー式握力計 これを用ゆる場合には「コリン式握力計」は除くべきである		38.00

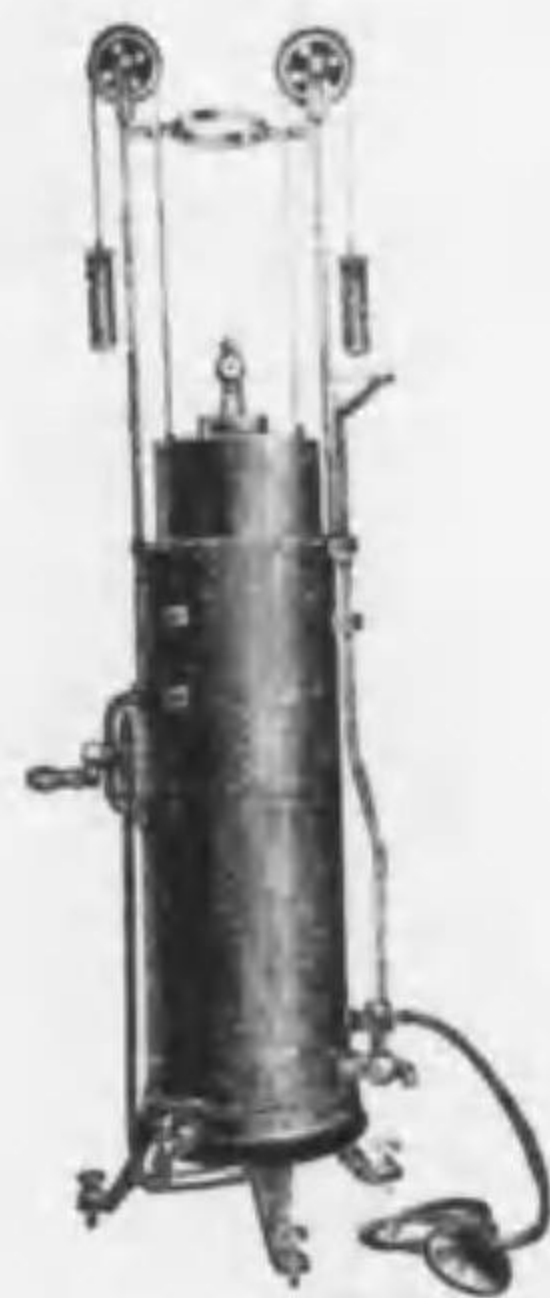
検査成績記入用紙	100枚一包	1.00
記憶力検査整理用紙	100枚一包	.90
學習力検査用紙	100枚一包	.50
智能検査法	一部	.20
智能検査用紙	100部	2.50
	1,000部	20.00
	10,000部	170.00
(上記の外荷造運賃は實費申受けます)		
検査成績の整理と計算法	一部	.20
検査成績と學業成績の關係		



文部省體育研究所指導  
**體力測定並に身體檢查器械**

(運動能力と疲勞測定)

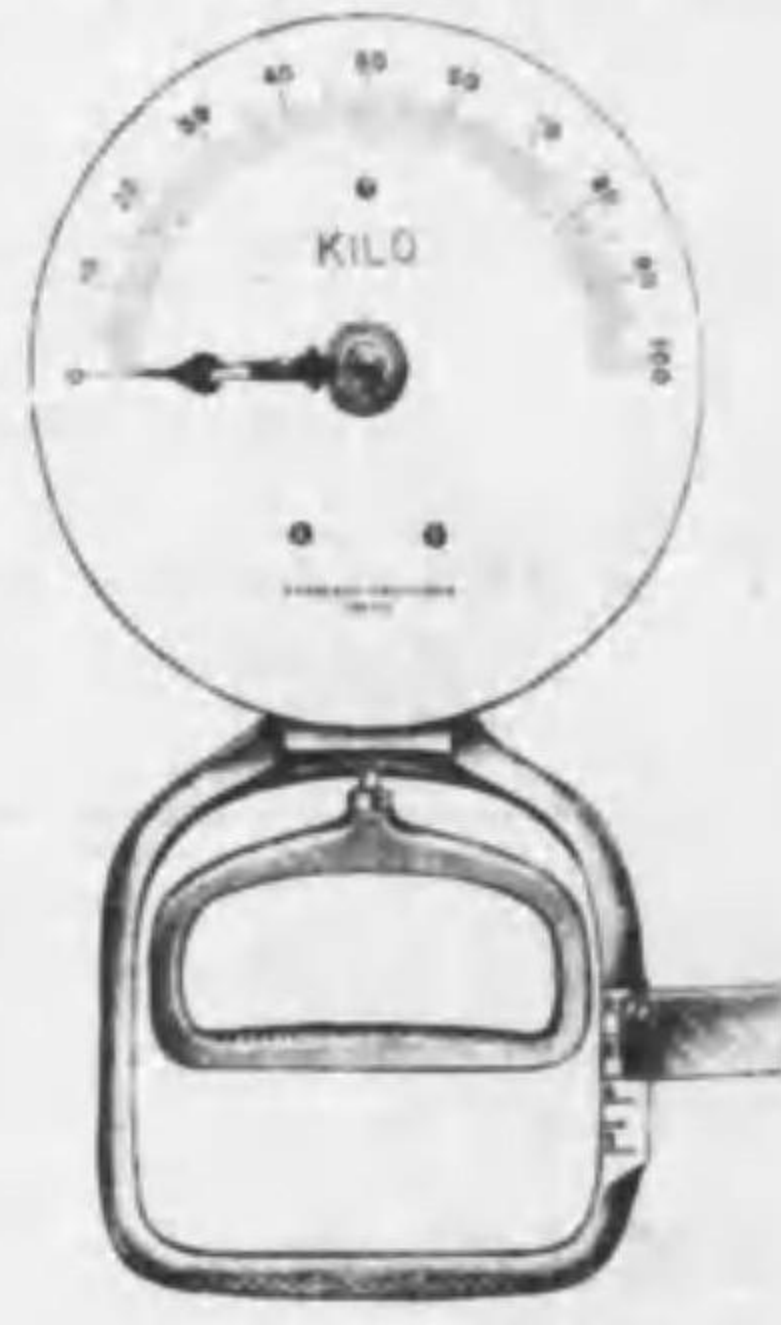
人體測定器	マルチン式 (檢定付)	100.00
坐高測定用腰掛	秋田式 (木製)	12.00
同	K. Y. 式 (金屬製)	45.00
肺活量計	吉田式 (檢定付)	60.00
背筋力計 (一名全身力計)	K. Y. 式	75.00
握力計	スメドレー式	38.00
身長計	K. Y. 式	28.00
自動式體重計	分銅式 (秤量90斤 感量200瓦)	片面目盛 105.00
同	同 (同)	兩面目盛 115.00
同	スプリング式 (秤量120斤 感量500瓦)	片面目盛 75.00
同	同 (同)	兩面目盛 82.50
身體檢查器械	甲組 (組合セ箱入)	280.00
同	乙組 (同)	200.00
同	丙組 (同)	120.00



(肺活量計)



(全身力計)



(スメドレー式握力計)

詳細目録は御申越次第呈送申上マス

特許心理學的適性檢查器械

定價表

番號	品名	代價	番號	品名	代價
1	明暗記憶檢查器	95.00	34	精密目測計	50.00
2	明暗調節檢查器	93.00	35	繼續指力檢查器	120.00
3	音調辨別檢查器	55.00	36	小野式智能指數尺	12.00
4	音響記憶檢查器	98.00	37	高峰式複式迴轉露出器	120.00
5	觸面辨別檢查器	25.00	38	S.N.K.式手先働作速度檢查器	38.00
6	重量辨別檢查器	80.00	40	カード分配能力檢查器	28.00
7	重量記憶檢查器	45.00	41	ガレオチー筋神描寫器	120.00
8	抵抗力記憶檢查器	50.00	42	自記式エルゴグラフ	100.00
9	運動度記憶檢查器	138.00	42	デュボア式エルゴグラフ	85.00
10	平衡度記憶檢查器	140.00	44	落下式瞬間露出器	180.00
11	區分確度檢查器	48.00	45	聽覺器(寺澤式)	120.00
12	空間辨別檢查器	82.00	46	ベーン氏感覺反應試驗器	580.00
13	視觸覺辨別檢查器	8.50	47	ブローカー氏迴轉椅子	550.00
14	同丸型	10.00	48	視調節檢查器	280.00
15	大小分類檢查器	35.00	49	ヒツブ氏クロノスコープ	500.00
16	構成力檢查器	10.00	50	ヒツブクロノスコ	
17	形體想像檢查器	10.00		ープ檢查器(寺師式)	180.00
18	呼稱反應檢查器	{ A號 80.00 B號 20.00	51	コントロールハムマー	85.00
19	繼續反應檢查器	180.00	52	ハンドエルゴグラフ	110.00
20	運動速度檢查器	28.00	53	觸覺計(エーピングハウス)	30.00
21	狙準働作檢查器	48.00	54	觸覺計	5.00
22	運轉働作檢查器	290.00	55	記憶實驗器(ランシブル氏)	70.00
23	共應働作檢查器	100.00	56	溫度感覺檢查器	10.00
	S.N.K.式共應働作檢查器	85.00	57	カイモグラフ(横線兼用)	180.00
			58	カイモグラフ	80.00
25	航空働作檢查器	{ A號 15,000.00 B號 2,500.00 C號 1,300.00	59	ユニバーサルスタンド	55.00
26	注意分配檢查器	315.00	60	メトロノーム(拍節器)	17.00
27	指頭安定檢查器	{ A號 150.00 B號 48.00	61	メトロノーム(水銀斷續器付)	35.00
28	直立安定檢查器	{ A號 300.00 B號 100.00	62	マグネツトマーカ- (シングル)	25.00
30	牽引繼續檢查器	80.00	63	マグネツトマーカ- (ダブル)	35.00
31	打叩確度檢查器	95.00	64	電 鐘	8.50
32	力量調節檢查器	115.00	65	スキツチ	7.00
33	S.N.K.式形體辨別速度 檢查器(一名別盤)	12.00	66	コリン握力計(檢定済)	12.00
			67	KY式スパイロメーター (メーター式肺活量計)	85.00
			68	測 線 器	5.00
			69	ストップウォッチ(並形)	20.00
			70	煙 標 裝 置	50.00
			71	ニス塗布裝置	18.00

以 上

(本器圖入目録は別冊にあり御申込次第送呈致します)



524  
42

大正十五年六月廿八日 第一版發行  
昭和三年五月廿六日 第二版發行  
昭和三年六月十三日 第三版發行  
昭和四年六月十三日 第四版發行  
昭和四年六月十三日 第五版發行

不許複製

編輯者

印刷者

印刷所

發行所

(金貳拾錢)

東京市下谷區御徒町三丁目一番地

山越長七

東京市京橋區船屋町五番地

佐藤保太郎

東京市京橋區船屋町五番地

株式會社 文祥堂

東京市下谷區御徒町三丁目一番地

山越工作所



特277  
973

特277-973  
\*76#10914 \*

終